

2022（令和4）年度

教職課程

自己点検評価報告書（資料）

京都精華大学

2023年3月

■芸術学部造形学科 認定課程:中一種免(美術)、高一種免(美術)、高一種免(工芸)

1) 教員養成の目標

芸術を通して現代社会を俯瞰的に見つけ、多様な表現手法と多角的な思考方法を身につけた人材の養成を目的として編成された造形学科の教育課程を履修するなかで、表現の技能はもちろん、自ら考え、自ら表現する美術・工芸における実践を生徒に指導できる教員を育成する。現代社会とより深く関係性を持つための技法や知見の探究を通じて、美術科・工芸科を担当する教員としてより実際的な識見を生徒に教授できる資質を高めるべく、多様な素材や表現様式に精通できるような領域横断的教育プログラムを提供する。修学を通じ、美術教科を担当する教員として求められる専門性・指導力・表現力等を高め、将来教壇に立つ上でのバックグラウンドを強化する。

2) 目標達成のための計画

履修年次		目標達成のための段階的計画
年次	時期	
1年次	前期	美術を学ぶ上での基礎となる「体験教育」と多様な技術や表現手段を体験する「メチエ教育」、ホームルームでの個性に合わせた少人数指導により、「基礎・体験・道標」を軸に表現することの「おもしろさ」を知り、基礎となる能力を養う。授業においては「絵画」と「彫刻」の表現について基礎的内容を確実に理解する一方で選択履修科目の中で洋画、日本画、立体表現、陶芸、染織、版画、映像の7つの領域から芸術全体を俯瞰するイメージを意識付ける。 また教職を志す学生は初年次から開設している入門的位置づけの教職関連科目を履修することで、「教育」についての理解を深めつつ今後の教職志向について教職課程履修の有無について判断する材料とする。
	後期	基礎的な表現方法を体感する一方で様々な芸術領域を理解することで今後の成長に備える時期となる。具体的には前期の「絵画」と「彫刻」に続き「デザイン」と「工芸」の表現について基礎的な力を養うことにより教職課程における核となる内容について理解を深める。 教職を志す学生は初年次から開設している入門的位置づけの教職関連科目を履修することで理解を深め、今後の教職課程継続について客観的な判断をする時期となる。また介護等体験に備えて「又は科目」についても履修することが望ましい。
2年次	前期	2年次より、洋画、日本画、立体表現、陶芸、染織、版画、映像の7つの領域より自ら選択した専攻の専門教育をさらに進化・実践しながら、技術力、表現力、思考力を深めるとともに創造力と社会への発信力を養い、自身の専門性、造形芸術における方向性を確認することを目的とする。また美術理論等について理解を深め、自由にそして深く考えるための素養をつくる。教員になるにあたって必要な基礎理論に関する知識(教育理念、教育史、教育思想、教育制度、生徒の心身の発達や学習過程など)についてはこの時期までに確実に修得しておく。
	後期	前期に引き続き、表現の基本能力の向上を目指し、課題制作の量をこなすと同時に、技法のバリエーションと表現力を増やし、それらの質を高めていく。教員になるにあたって必要な基礎理論に関する知識(教育理念、教育史、教育思想、教育制度、道徳、生徒・児童の心身の発達や学習過程など)について復習しつつ、教育課程の意義やその編成方法に関する理解、教育方法の考察や教材活用に必要な技術の修得に努め、各自で各教科で学んだ事項について体系・統合化する。
3年次	前期	所属するコースの専門領域をさらに探求しながら、アートプロジェクト等に関わり、社会と創造的で双方向的な関係を切り結んでいくことを模索する時期である。一つの専攻内の教員だけでなく、多領域にわたる専門性と経験を有する実技および理論の教員らによる指導や対話を通じて、芸術のあり方、考え方の多様な可能性を学んでいく。教職志望者としては、教職の意義や教員が担う役割について再確認するとともに教員の具体的な職務内容について知ることで教職に就くことに対するリアリティを高めつつ、美術科等の各種指導法を学び教育実践力を養成する。
	後期	前期に引き続き、所属する専攻の専門教育を実践しながら対外的に発信をすることにより、自身の専門性や造形芸術における方向性を確認していくことを目的とする。 教職課程履修者については次年度、実際に教壇に立った自分を創造しながら、模擬体験や事例研究、教材試用、指導案作成など授業のなかで美術科教育の手法について習熟の度合いを深めていくとともに、これまでに学んだ教育に関する理論と方法を復習し、教員としての資質能力を総合的に向上させる。またクラス運営に備えて道徳教育についても理解を深める必要がある。
4年次	前期	学生が自ら必要とする技術や指針を多くの選択肢の中から選びとる力、客観的かつ柔軟に対象を捉える基礎力に加え、領域横断的な表現への対応力、自由にそして深く考えるために必要な知識、思考力などをじっくりと学べる環境を整備する。 教職課程においても学習の成果を検証する総括の時期である教育実習に赴く。事前指導でモチベーションと実践力を高めて実習に臨み、学校現場で生徒たちと交わる実体験を通して教職の醍醐味を実感する。数週間の実習期間の中で、教員として自分には何が出来て何が出来ないのかを認識し、足りない部分は克服すべき課題として持ち帰り、後期の学習につなげる。
	後期	4年間の制作と研究の集大成としての卒業制作に開花させていきながら、自身を社会へ、進学へと繋げていく。 教職課程においては事後指導と教職実践演習の授業が控える総決算の時期であり、教員として足りない知識や技術をこの半期の間にブラッシュアップし、これまで学科の実技や講義等で培った専門的な技能と見識をいかに有機的に美術教育へ繋げるか各自で思慮し、様々な領域アプローチから芸術実践を生徒に指導できる自分なりの方法論を確立する。

■ デザイン学部イラスト学科 認定課程: 中一種免(美術)、高一種免(美術)

1) 教員養成の目標

「伝える能力」の育成を教育方針の大きな柱のひとつとして掲げている学科の専門教育と連動させながら、絵画よりもポピュラーなものへと変容し、生活全般に溶け込んで万人に膾炙しているイラストという汎用性の高い表現形式を教育素材として最大限に活用し、美術教育・振興のレバレッジに使うことのできる、イラストの機能に知悉した現代的な美術教員の養成を目指す。

2) 目標達成のための計画

履修年次		目標達成のための段階的計画
年次	時期	
1年次	前期	まずは前期中のなるべく早い段階で大学という高等教育システム(教育課程の成り立ちと履修制度の仕組み)に馴れることを最低条件とする。「あらゆる表現行為の前にイメージがある」という大前提を認識するとともに、「イメージは手の延長にある」という考えから「描く」というエクササイズを徹底的におこない、様々な表現の基礎となる力を養うというイラスト学科の教育方針を体感する。また、メディアの時代に対応する不可欠な能力としての英語力の向上を目指す。教職を志す学生は初年次から開設している入門的位置づけの教職関連科目を履修することで、教職志向を強めるか教職課程の履修を断念するかを判断する。
	後期	各種メディアを自由に横断する当学科の表現領域の可能性に気づき、他のファインアート専攻との学びの相違を強く認識する。表現する上でもっとも重要な時代感覚を養うことを目的に、日常的にも知覚興味の幅を広げ、多種多様な芸術作品や出版媒体に目を向け、イメージを育むトレーニングをおこなう習慣を身につける。また、メディアの時代に対応する不可欠な能力としての英語力の向上を目指す。教職を志す学生は初年次から開設している入門的位置づけの教職関連科目を履修することで、教職志向を強めるか教職課程の履修を断念するかを判断する。
2年次	前期	1年次に引き続き、表現の基本能力となる描画力の向上を目指し、課題制作の量をこなすと同時に、技法のバリエーションを増やし、それらの質を高めていく。また、メディアの時代に対応する不可欠な能力としてのCGスキルの上達を図る。教職課程履修に関する覚悟を固める課程登録手続きが発生する年次であり、教員になるにあたって必要な基礎理論に関する知識(教育理念、教育史、教育思想、教育制度、生徒の心身の発達や学習過程など)についてはこの時期に確実に習得しておく。
	後期	前期に引き続き、表現の基本能力となる描画力の向上を目指し、課題制作の量をこなすと同時に、技法のバリエーションを増やし、それらの質を高めていく。また、メディアの時代に対応する不可欠な能力としてのCGスキルの上達を図る。教員になるにあたって必要な基礎理論に関する知識(教育理念、教育史、教育思想、教育制度、道徳、生徒・児童の心身の発達や学習過程など)について復習しつつ、教育課程の意義やその編成方法に関する理解、教育方法の考察や教材活用に必要な技術の習得などに努め、各自で各教科で学んだ事項について体系・統合化する。
3年次	前期	様々な表現様式と視覚メディアを並行して学び、多数の制作課題を通して試行錯誤を繰り返しながら、一人ひとりが独自の表現スタイルを模索する。授業という名のプログラムこそ用意はしているが、先人の模倣から逃れ、学生各人が自立/自律した表現者となる自覚を持ち、互いに創造性を競い合う環境下で大いに制作上の悩みを抱えることそれ自体を目標とする。教職志望者としては、教職の意義や教員が担う役割について再確認するとともに教員の具体的な職務内容について知ることによって教職に就くことに対するリアリティを高めつつ、美術科の指導法を学び教育実践力を養成する。
	後期	前期に引き続き、様々な表現様式と視覚メディアを並行して学び、多数の制作課題を通して一人ひとりが独自の表現スタイルを確立させる、もしくは方向性を見出す。次年度、実際に教壇に立った自分を想像しながら、模擬体験や事例研究、教材試用、指導案作成などのブラクティカルな授業のなかで美術科教育の手法について習熟の度合いを深めていくとともに、生徒指導・進路指導・教育相談に関する理論と方法を学び、教員としての資質能力を総合的に向上させる。
4年次	前期	WEB上でギャラリーを立ち上げたり、アートイベントを企画したりするなど、表現者としていかに世の中にプレゼンテーションをおこなうか、作品自体だけではなくプロモーションも含めた各人のアウトカム全体が問われる。学内外の学生同士や企業、あるいは海外の団体などと連携して共同企画・制作をおこなうような、第三者とのコラボレーションの過程のなかで、実社会で汎通的に求められるコミュニケーション能力を高い水準まで引き上げる。教職課程においても学習の成果を検証する総括の時期、すなわち教育実習に赴くことになる。事前指導でモチベーションと実践力を高めて実習に臨み、学校現場で生徒たちと交わる実体験を通して、楽しさも難しさもひっくるめた教職の醍醐味を実感する。数週間の実習期間の中で、教員として自分には何が出来る何が出来ないのかを認識し、足りない部分は克服すべき課題として持ち帰り、後期の学習につなげる。
	後期	拡張し続ける視覚メディアすべてをステージとして各領域を自由に横断する卒業制作に従事するなかで、クリエイターとしての自覚と自信を持てるようになる。イラスト学科の大きな教育目標である「メディアとアートの統合」を学科教員や学内関係者、一般鑑賞者に感じさせてくれるような力作が卒業制作展に並ぶことを期待する。教職課程においては事後指導と教職実践演習の授業が控える総決算の時期。教員として足りない知識や技術をこの半期の間にブラッシュアップし、これまで学科の実技や講義等で培ったデザイン分野における専門的な技能と見識をいかに有機的に美術教育へリンクさせるかを各自で思案し、他分野出身者とは異なるコミュニケーション・デザイン的なアプローチから芸術実践を生徒に指導できる自分なりの方法論を確立する。

■ デザイン学部ビジュアルデザイン学科 認定課程: 中一種免(美術)、高一種免(美術)

1) 教員養成の目標

あらゆるメディアや表現様式に精通するための教育プログラムの修学を通じ、現代社会とアクチュアルに切り結ぶための技法や知見の探究を通じて、ファインアートの分野での教育研究を経た教員とは異なるコミュニケーション・デザイン的なアプローチから、より実際の知識や芸術実践を生徒に指導できる美術教員の養成を目指す。

2) 目標達成のための計画

履修年次		目標達成のための段階的計画
年次	時期	
1年次	前期	まずは前期中のなるべく早い段階で大学という高等教育システム(教育課程の成り立ちと履修制度の仕組み)に馴れることを最低条件とする。コンピュータの実習により基礎的なデジタルスキルを身につけるとともに、グラフィックデザインの重要な表現要素である「文字」と「図像」の実習を軸に両者を関係づけながらビジュアルデザインの基礎的技法を習得する。また、メディアの時代に対応する不可欠な能力としての英語力の向上を目指す。教職を志す学生は初年次から開設している入門的位置づけの教職関連科目を履修することで、教職志向を強めるか教職課程の履修を断念するかを判断する。
	後期	前期に引き続き、グラフィックデザインの重要な表現要素である「文字」と「図像」の実習に取り組み、両者の関係性に対する理解を深め、表現者の基礎体力を上げる。絵画的技能についても課題制作を通じてその基本的な能力を高める。課題テーマに対して、自らの構想やイメージを自在に発展させながら手わざや感性を磨く。また、メディアの時代に対応する不可欠な能力としての英語力の向上を目指す。教職を志す学生は初年次から開設している入門的位置づけの教職関連科目を履修することで、教職志向を強めるか教職課程の履修を断念するかを判断する。
2年次	前期	1年次で学んだ「文字」と「図像」の要素を発展させた「文字設計」と「図像デザイン」に関するより専門的な技能を習得する。併せて、写真や WEB デザインなどの映像メディア要素を含む主題について知識や技能の獲得に努める。教職課程履修に関する覚悟を固める課程登録手続きが発生する年次であり、教員になるにあたって必要な基礎理論に関する知識(教育理念、教育史、教育思想、教育制度、生徒の心身の発達や学習過程など)についてはこの時期に確実に習得しておく。
	後期	前期に引き続き、多岐にわたる芸術表現を学び、各表現領域における個々の能力レベルや相性について自覚する。各自が指向する分野の能力を伸長させるとともに、苦手分野の能力の引き上げを図る。教員になるにあたって必要な基礎理論に関する知識(教育理念、教育史、教育思想、教育制度、道徳、生徒・児童の心身の発達や学習過程など)について復習しつつ、教育課程の意義やその編成方法に関する理解、教育方法の考察や教材活用に必要な技術の習得などに努め、各自で各教科で学んだ事項について体系・統合化する。
3年次	前期	2年次に個々が磨いたスキルをいかにして作品制作に最大限活かすかを模索するプロジェクト型の実習授業により、応用力を高める。また、デザインという専門の蛸壺に籠らず、美術の理論や歴史についても造詣を深めるように努め、作品の批評力やコンテキストを読み解く力を養う。教職志望者としては、教職の意義や教員が担う役割について再確認するとともに教員の具体的な職務内容について知ることで教職に就くことに対するリアリティを高めつつ、美術科の指導法を学び教育実践力を養成する。
	後期	前期に引き続き、具体的かつ実践的ないくつかのプロジェクト型の実習授業を通して、表現者として、そして将来の学校教員として不足している専門知識と技能に気づき、各自でそれらの要素を補完する。翌年度の卒業制作に向けて、一人ひとりが独自の表現スタイルと方向性を見出す。また、次年度、実際に教壇に立った自分を想像しながら、模擬体験や事例研究、教材試用、指導案作成などのプラクティカルな授業のなかで美術科教育の手法について習熟の度合いを深めていくとともに、生徒指導・進路指導・教育相談に関する理論と方法を学び、教員としての資質能力を総合的に向上させる。
4年次	前期	4年間の集積として、それまで研究を積み重ねてきたデザインを「テーマ研究」として総括・作品発表する。教職課程においても学習の成果を検証する総括の時期、すなわち教育実習に赴くことになる。事前指導でモチベーションと実践力を高めて実習に臨み、学校現場で生徒たちと交わる実体験を通して、楽しさも難しさもひっそりとした教職の醍醐味を実感する。数週間の実習期間の中で、教員として自分には何が出来て何が出来ないのかを認識し、足りない部分は克服すべき課題として持ち帰り、後期の学習につなげる。
	後期	卒業制作プロジェクトと教育実習事後指導、教職実践演習の授業に真剣に取り組むなかで、4年間の総決算として各自が自覚した教員として足りない知識や技術をこの半期の間にブラッシュアップする。これまで学科の実技や講義等で培ったデザイン分野における専門的な技能と見識をいかに有機的に美術教育へリンクさせるかを各自で思案し、他分野出身者とは異なるコミュニケーション・デザイン的なアプローチから芸術実践を生徒に指導できる自分なりの方法論を確立する。

■ デザイン学部プロダクトデザイン学科 認定課程: 中一種免(美術)、高一種免(美術)、高一種免(工芸)

1) 教員養成の目標

感性豊かな発想をカタチにする表現スキル、モバイル電子機器等の新たな価値を生み出すプロデュース力、心躍る生活用品や空間演出等を創出できる力を育成するとともに、京都の伝統産業工芸の歴史と技能に触れて職人の姿勢を後世へ継承するためのプロダクトデザイナーを養成する学科の専門教育課程との密な連関性によって、総合力の高い美術科教員の養成を目指す。

2) 目標達成のための計画

履修年次		目標達成のための段階的計画
年次	時期	
1年次	前期	まずは前期中のなるべく早い段階で大学という高等教育システム(教育課程の成り立ちと履修制度の仕組み)に馴れることを最低条件とする。立体・平面の造形とデザインのためのハンドスキルの基礎技術を習得する。美しい形態を追求するために自由に発想・ものづくりをおこない、身内の創造力を引き出し、独自の色彩や形態を生み出し、それを他者に適切に伝える表現力を磨く。また、メディアの時代に対応する不可欠な能力としての英語力の向上を目指す。教職を志す学生は初年次から開設している入門的位置づけの教職関連科目を履修することで、教職志向を強めるか教職課程の履修を断念するかを判断する。
	後期	京都という立地を活かした「工芸」(竹、漆、鍛金、京指物等)を含む演習授業により、京都ならではの DNA が生み出すデザイン感覚を吸収する。かたちと色、絵画、立体構成、製図、CG などのデザインに必要な要素やスキルの基礎を習得する。基礎教職を志す学生は初年次から開設している入門的位置づけの教職関連科目を履修することで、教職志向を強めるか教職課程の履修を断念するかを判断する。
2年次	前期	1年次の学習内容を基盤とし、一部の基礎デザインと専門性に準じた応用デザインのノウハウを習得する。素材、レンダリング、CAD、模型制作などのほか、京都の地産プロダクトにも触れ、多角的かつ密度の高いプログラムから、専門的な知識と技能を広範に身につける。教職課程履修に関する覚悟を固める課程登録手続きが発生する年次であり、教員になるにあたって必要な基礎理論に関する知識(教育理念、教育史、教育思想、教育制度、生徒の心身の発達や学習過程など)についてはこの時期に確実に習得しておく。
	後期	前期に引き続き、多様なデザイン手法に触れ、制作上重要なデザインコンセプトの意味や発想方法、初歩的なデザインプロセスの習熟に加えて、デザイン分野からみた情報メディアや自然科学との関わりなどについて実習を通じて学び取る。教員になるにあたって必要な基礎理論に関する知識(教育理念、教育史、教育思想、教育制度、道徳、生徒・児童の心身の発達や学習過程など)について復習しつつ、教育課程の意義やその編成方法に関する理解、教育方法の考察や教材活用に必要な技術の習得などに努め、各自、各教科で学んだ事項について体系・統合化する。
3年次	前期	各自がテーマとして取り上げたいデザイン領域を専門的かつ広い見地から調査・分析し、それに基づいてデザインワーク全体の要領に慣れることを3年次の目標のひとつとする。基礎から発展して、インダストリアルデザインやエルゴノミクスデザイン、インテリアデザインなどに接し、美しい遊び心や感性に磨きをかける。教職志望者としては、教職の意義や教員が担う役割について再確認するとともに教員の具体的な職務内容について知ることで教職に就くことに対するリアリティを高めつつ、美術科の指導法を学び教育実践力を養成する。
	後期	前期に引き続き、各自がテーマとして取り上げたいデザイン領域を専門的かつ広い見地から調査・分析し、それに基づいてデザインワーク全体の要領に慣れることを目標とする。環境デザイン、エディトリアルデザインなどだけでなく、デザインマネジメントなどに接し、美的感覚の練磨と社会的見識の獲得を目指す。次年度、実際に教壇に立った自分を想像しながら、模擬体験や事例研究、教材試用、指導案作成などのプラクティカルな授業のなかで美術科教育の手法について習熟の度合いを深めていくとともに、生徒指導・進路指導・教育相談に関する理論と方法を学び、教員としての資質能力を総合的に向上させる。
4年次	前期	各自テーマとするデザインの専門性に基づき、学びの集大成として、調査・研究・分析をおこない、自ら築き上げたコンセプトに裏づけされたデザインワークを展開させる。自身の作品が有する社会的メッセージ性やプロダクトとしての魅力について客観的に批評できる力を備えたい。教職課程においても学習の成果を検証する総括の時期、すなわち教育実習に赴くことになる。事前指導でモチベーションと実践力を高めて実習に臨み、学校現場で生徒たちと交わる実体験を通して、楽しさも難しさもひっくり返した教職の醍醐味を実感する。数週間の実習期間の中で、教員として自分には何が出来る何が出来ないのかを認識し、足りない部分は克服すべき課題として持ち帰り、後期の学習につなげる。
	後期	教職課程においては事後指導と教職実践演習の授業が控える総決算の時期。教員として足りない知識や技術をこの半期間にブラッシュアップし、これまで学科の実技や講義等で培ったデザイン分野における専門的な技能と見識をいかに有機的に美術教育へリンクさせるかを各自で史料し、他分野出身者とは異なるコミュニケーション・デザイン的なアプローチから芸術実践を生徒に指導できる自分なりの方法論を確立する。デザインを発想する力を向上させるために、これまで履修してこなかったデザイン領域以外の一般教養科目があれば、在学のうちに主体的に補完履修し、見識を広げるよう努める。

■マンガ学部マンガ学科 認定課程: 中一種免(美術)、高一種免(美術)

1) 教員養成の目標

日本のマンガ文化がグローバルな関心と学習意欲の対象になっている現在、それに応え得る識見を持った人材の育成をわが国の文化的指導力の長期的継続を左右する要諦と捉え、マンガを教育研究の対象として正対し、マンガ文化の継承と発展に貢献できるような、初等教育から高等教育への長期的な構想の上に立った新しい芸術教育を担う人材の養成を目指す。

2) 目標達成のための計画

履修年次		目標達成のための段階的計画
年次	時期	
1年次	前期	まずは前期中のなるべく早い段階で大学という高等教育システム(教育課程の成り立ちと履修制度の仕組み)に馴れることを最低条件とする。観察力と画力の鍛錬を目的として、人物や動物、静物、見慣れた風景などを対象に、徹底的にデッサン、クロッキーによるトレーニングを繰り返す。教職を志す学生は初年次から開設している入門的位置づけの教職関連科目を履修することで、教職志向を強めるか教職課程の履修を断念するかを判断する(必修実技科目の時間割がタイトであること、課題量が多いことを体感したうえで判断する)。
	後期	絵画的要素、デザインの要素のマンガ表現への活かし方を習得する。また、PCを使った演習によって映像メディアの編集やデジタル機器の取り扱い方法に関する基礎知識を得る。美術史・美術理論の背景を参照しながら、マンガの理論や歴史についても理解を深める。教職を志す学生は初年次から開設している入門的位置づけの教職関連科目を履修することで、教職志向を強めるか教職課程の履修を断念するかを判断する(必修実技科目の時間割がタイトであること、課題量が多いことを体感したうえで判断する)。
2年次	前期	1年次と同様に、表現者としての画力の向上・維持を目的に、徹底的に対象の描写トレーニングをおこなうとともに、各自の専門に応じた基礎となる知識と技能の習熟を図る。その演習の過程の中で、物事を多角的に分析する眼力や、ペン・水彩・油彩など、様々な表現を試みながら独自の絵画スタイルを模索する時期とする。教職課程履修に関する覚悟を固める課程登録手続きが発生する年次であり、教員になるにあたって必要な基礎理論に関する知識(教育理念、教育史、教育思想、教育制度、生徒の心身の発達や学習過程など)についてはこの時期に確実に習得しておく。
	後期	アナログ画・デジタル画ともに多数の作品を仕上げ、描画技術を腕に染み込ませる。とりわけ時代の要請ともいえるデジタル化に対応できるよう成果物を作り上げる経験を積み、合評等の機会に他者と比較することで、自分の表現力にはどのような要素が不足しているかを自覚する。教員になるにあたって必要な基礎理論に関する知識(教育理念、教育史、教育思想、教育制度、道徳、生徒・児童の心身の発達や学習過程など)について復習しつつ、教育課程の意義やその編成方法に関する理解、教育方法の考察や教材活用に必要な技術の習得などに努め、各教科で学んだ事項について体系・統合化する。
3年次	前期	2年間にわたりしっかり身につけた基礎技能をもとに応用への展開力を身につける、作品制作のテーマに設定される社会の時事問題等について制作過程の中で教員や同僚とディスカッションを交わしながら、自分なりの価値観や世界観を発見する。教職志望者としては、教職の意義や教員が担う役割について再確認するとともに教員の具体的な職務内容について知ることで教職に就くことに対するリアリティを高めつつ、美術科の指導法を学び教育実践力を養成する。
	後期	現代社会の多くの諸問題を冷静に見つめ、自分の思いを込めた作品を制作できるよう、それを下支える画力の向上と一般教養の深化に各自努める。マンガ領域以外の芸術表現や学問に積極的に触れておきたい。次年度、実際に教壇に立った自分を想像しながら、模擬体験や事例研究、教材試用、指導案作成などのプラクティカルな授業のなかで美術科教育の手法について習熟の度合いを深めていくとともに、生徒指導・進路指導・教育相談に関する理論と方法を学び、教員としての資質能力を総合的に向上させる。
4年次	前期	マンガが「情報操作と表現力を併せ持ったパワフルなメディア」であることを再認識し、学校教育ひいては社会のあらゆる局面への応用可能性について模索する。芸術や娯楽としてのマンガ表現ではない、「マンガの実用性」について認識する。教職課程においても学習の成果を検証する総括の時期、すなわち教育実習に赴くことになる。事前指導でモチベーションと実践力を高めて実習に臨み、学校現場で生徒たちと交わる実体験を通して、楽しさも難しさもひっそりめた教職の醍醐味を実感する。教週間の実習期間の中で、教員として自分には何が出来て何が出来ないのかを認識し、足りない部分は克服すべき課題として持ち帰り、後期の学習につなげる。
	後期	これまで地道に練成してきた画力と表現様式を駆使して卒業制作に取り組む。教職課程においては事後指導と教職実践演習の授業が控える総決算の時期。教員として足りない知識や技術をこの半期の間に強化し、これまで学科の実技や講義等で培った専門的な技能と見識をいかに有機的に美術教育へリンクさせるかを各自で思案し、マンガというメディアを通じて生徒たちにどのような芸術実践を指導し、美術への理解を図れるか、自分なりの方法論を確立する。学校教育におけるマンガ表現のポテンシャルに気づきを得て、教職へのモチベーションを高めたい。

■マンガ学部アニメーション学科 認定課程:中一種免(美術)、高一種免(美術)

1) 教員養成の目標

絵画に要求される力・感性に加え、音楽との協働性、動きと物語性という時間感覚の駆使、視覚の認知科学的知見、物語創作のための歴史的・社会的・文学的知識という多面性や総合性をも求められるアニメーションという表現領域について、表層的な消費文化の一端だけではなく、将来にわたって真の「文化」として発展させていくための担い手として、教職課程を通じたアニメーション芸術の教育・普及者の養成を目指す。

2) 目標達成のための計画

履修年次		目標達成のための段階的計画
年次	時期	
1年次	前期	まずは前期中のなるべく早い段階で大学という高等教育システム(教育課程の成り立ちと履修制度の仕組み)に馴れることを最低条件とする。入門的な専門講義や実技を通して、芸術分野におけるアニメーションという映像芸術の立ち位置について知る。教職を志す学生は初年次から開設している入門的位置づけの教職関連科目を履修することで、教職志向を強めるか教職課程の履修を断念するかを判断する。
	後期	「アニメーションとは何か」を基本の構造から分析し、ドローイング等の授業で探求的な反復鍛錬を通して、真の意味での画力と構想力を身につけることを目指す。理論・作画・CGを三位一体的に学んでいくことで創作者としての基礎体力を養いたい。教職を志す学生は初年次から開設している入門的位置づけの教職関連科目を履修することで、教職志向を強めるか教職課程の履修を断念するかを判断する。
2年次	前期	アニメーションという関数には、変数として「空間」だけでなく「時間」が加わるが、その結果としての「動き」と「物語性」について焦点を当てる。アニメーションを映像技法の表現としてだけ考えるのではなく、広く「動きの文化」として捉え、「動き」の意味性を研究することで、「動き」が持つ表現力の深さの理解を目指す。教職課程履修に関する覚悟を固める課程登録手続きが発生する年次であり、教員になるにあたって必要な基礎理論に関する知識(教育理念、教育史、教育思想、教育制度、生徒の心身の発達や学習過程など)についてはこの時期に確実に習得しておく。
	後期	多様な講義や実習を通じてアニメーションの視野を広げることで、創造者・研究者、そして将来の教育者としての思考に広さと深さと柔軟性を加えたい。アニメーションの技法を支える絵画表現では、基本造形からデフォルメへ、CGでは基本テクニックの習得から自己の表現の探求へと、跳躍を可能にする応用力を身につける。教員になるにあたって必要な基礎理論に関する知識(教育理念、教育史、教育思想、教育制度、道徳、生徒・児童の心身の発達や学習過程など)について復習しつつ、教育課程の意義やその編成方法に関する理解、教育方法の考察や教材活用に必要な技術の習得などに努め、各教科で学んだ事項について体系・統合化する。
3年次	前期	これまでの2年間の学習を基に自分の適性を見極め、作成作品の方向性を定めて、身につけた基礎体力と応用力を駆使して創作技能に磨きをかけ、企画・発想の視野を広げる。教職志望者としては、教職の意義や教員が担う役割について再確認するとともに教員の具体的な職務内容について知ることで教職に就くことに対するリアリティを高めつつ、美術科の指導法を学び教育実践力を養成する。
	後期	デジタルテクノロジーの進化が拓いた新たな地平、すなわちセル、クレイ、人形、切紙、ペーパー、ガラスペインティング、実写などの多様な表現分野が対等の実現可能性を獲得した地平に立って、アニメーションの可能性を問い直すことができる専門知識と技能レベルを学科専門教育科目の履修によって獲得する。次年度、実際に教壇に立った自分を想像しながら、模擬体験や事例研究、教材試用、指導案作成などのプラクティカルな授業のなかで美術科教育の手法について習熟の度合いを深めていくとともに、生徒指導・進路指導・教育相談に関する理論と方法を学び、教員としての資質能力を総合的に向上させる。
4年次	前期	最終年次では卒業制作と発表に向けて、プリプロダクション、プロダクション、ポストプロダクションを完遂させる。これまで練り上げた画力・構想力・表現力・考察力・デザインセンス・他者との協調性・独創性等の要素を総動員して最終課題に立ち向かう。教職課程においても学習の成果を検証する総括の時期、すなわち教育実習に赴くことになる。事前指導でモチベーションと実践力を高めて実習に臨み、学校現場で生徒たちと交わる実体験を通して、楽しさも難しさもひっくり返した教職の醍醐味を実感する。数週間の実習期間の中で、教員として自分には何が出来て何が出来ないのかを認識し、足りない部分は克服すべき課題として持ち帰り、後期の学習につなげる。
	後期	教職課程においては事後指導と教職実践演習の授業が控える総決算の時期。教員として足りない知識や技術をこの半期の間に強化し、これまで学科の実技や講義等で培った専門的な技能と見識をいかに有機的に美術教育へリンクさせるかを各自で思料し、独創的なアプローチから芸術実践を生徒に指導できる自分なりの方法論を確立する。 創成系映像芸術としてのアニメーションの、広大で肥沃な領野が眼前に広がり始めた今、表現ジャンルはなんであろうとも、来るべき時代の芸術性を追究して、学校教育において生徒たちにアニメーションという映像メディアの素晴らしさを伝道できる教員となれるよう、自覚的に学修に臨みたい。

資料1

■国際文化学部人文学科 認定課程: 中・高一種免(国語)、中一種免(社会)、高一種免(地歴)、高一種免(公民)

1) 教員養成の目標

日本の「文学」「歴史」「社会」「文化」を研究対象とし、日本を基点とした世界の文化と社会を多角的に捉えることを軸としている。多くの課題を抱える教育現場において、その状況を4つの専攻で身につけた広い視野で捉えて解決の方法を探る「発想力」を持ち、解決に向けての働きかけを実践できる「行動力」を持つ教師の育成、そしてチーム学校としての教員組織や保護者、広くは地域社会とともに取り組むことのできる「協働力」を備えた教員養成を目的とする。

2) 目標達成のための計画

履修年次		目標達成のための段階的計画
年次	時期	
1年次	1・2クォーター	「課程」や「履修制度」の仕組みを知り、大学生活の基礎を学ぶ。学生は初年次から開設している入門的位置づけの教職関連科目を履修することで、「教育」についての理解を深めつつ、今後の教職課程履修の有無について判断する材料とする。 教職関連科目を通じて視野を拡張し、今後の学びの可能性を広げ、自らの学習計画の向上と改善を目指す。
	3・4クォーター	入門的位置づけの教職関連科目、66条の6に該当する科目を履修し、1年次での取得を目指す。 引き続き入門的位置づけの教職関連科目を履修することで理解を深め、今後の教職課程継続について客観的な判断をする時期となる。
2年次	1・2クォーター	教職課程履修に関する覚悟を固める課程登録手続きが発生する年次となる。そのため学科と教職課程の両立に向けての履修計画を立案する。一方で教職の基礎的理解に関する科目取得に本格的に取り組む。 教科に関する科目の基礎的な理解を深めながら、前クォーターから引き続き教職課程に関連する科目の単位取得を目指す。
	3・4クォーター	2年次後半の教職の基礎的理解に関する科目を履修し、教員になるための理解を深めつつ、教科に関する科目も集中的に取得する時期となる。 前クォーターに引き続き、教職課程の科目について学び、一方で卒業論文のテーマとも関連する3年次の「長期フィールドワーク」の計画を立案する時期となるが教職に関するテーマについては教職教員にも相談する。
3年次	1・2クォーター	1クォーター全期間を費やす「長期フィールドワーク」にて学外での研究が始まる。参与観察、インタビューやアンケート、現地でのみ入手可能な資料や情報の収集といった調査を実行する。その中で自立した人間としての成長も目指す。 「長期フィールドワーク」の履修により自らの専門的な学びに重層的な厚みを加えた後に、教員の指導のもとで調査報告書をまとめる。その中で新たに得られた知見や教員の指摘に応えることで、更に専門知を高める。
	3・4クォーター	3年次後半にて教職の基礎的理解に関する科目の主要な部分の単位取得を目標とする。学科においてはフィールドワークの調査・研究に関する報告書を作成、展示発表することにより、自らの学びの成果を他者へ伝達するための技能を習得する。 模擬体験や事例研究、教材試用、指導案作成などのプラクティカルな授業のなかで各教科教育の手法について習熟の度合いを深めていくとともに、これまでに学んだ教育に関する理論と方法を復習し、教員としての資質能力を総合的に向上させる。 実際に教壇に立った自分を創造しながら、模擬体験や事例研究、教材試用、指導案作成などの実践的な学びの中で教育実習に必要な能力を向上させる。
4年次	1・2クォーター	教育実習に関する事前指導、実習中の指導、事後指導により教員としての資質向上を目指す。 教職課程においてすなわち教育実習に赴く時期であり、事前指導にて今までの学習の成果を検証、総括する。 学校現場で生徒たちと交わる実体験を通して、楽しさも難しさも含めた教職の醍醐味を実感する。数週間の実習期間の中で、教員として自分には何が出来て何が出来ないのかを認識し、足りない部分は克服すべき課題として持ち帰り、後半の学習につなげる。
	3・4クォーター	教育実習で得られた教師としての課題を克服するため、事後指導、教職実践演習にて弱点を克服する。 第3クォーターに引き続き、事後指導と教職実践演習による総決算の時期。教員として足りない知識や技術をブラッシュアップし、授業で培った専門的な技能と見識をいかに国語の教育へリンクさせるかを各自で思案し、4年間で獲得した実践知を生徒に指導できる自らの方法論を確立する。

■国際文化学部グローバルスタディーズ学科 認定課程: 中一種免(社会)、高一種免(公民)

1) 教員養成の目標

著しい発展と同時に多様な課題を抱え、世界が注目するアフリカ・アジア地域に学びの場を重点化し、世界の新しい関係性や構造をグローバル視点で捉えることを軸としている。グローバル化の進展とともに大変革期を迎えるアフリカ・アジアの文化や歴史、政治経済を多角的にとらえるなかで得た豊かな「発想力」を育て、必修科目となるフィールドワークにて自発的な「行動力」を培い、身につけた語学やコミュニケーションスキルを「協働力」として発揮できる教員養成を目的とする。

2) 目標達成のための計画

履修年次		目標達成のための段階的計画
年次	時期	
1年次	1・2 クォーター	「課程」や「履修制度」の仕組みを知り、大学生活の基礎を学ぶ。66条の6に該当する科目を履修する。アジア諸国で約2週間の短期留学に参加する「短期海外ショートプログラム」に東南アジアの社会と芸能文化の体験や、ボランティア活動など興味のあるテーマを選択して参加する。異文化に直に触れ、3年次の長期フィールドワークのための土台となる基礎力を養う。
	3・4 クォーター	入門的位置づけの教職関連科目を履修することで理解を深め、今後の教職課程継続について客観的な判断をする時期となる。
2年次	1・2 クォーター	教職課程履修に関する覚悟を固める課程登録手続きが発生する年次となる。そのため学科と教職課程の両立に向けての履修計画を立案する。一方で教職の基礎的理解に関する科目、教科の指導法に関する科目の取得に本格的に取り組む。 教科に関する科目の基礎的な理解を深めながら、前クォーターから引き続き教職課程に関連する科目の単位取得を目指す。また教科に関する科目の単位取得にも集中的に取り組む時期となる。
	3・4 クォーター	2年次後半の教職の基礎的理解に関する科目及び教科の指導法に関する科目を履修し、教員になるための理解を深める。 前クォーターに引き続き、教職課程の科目について学び、一方で卒業論文のテーマとも関連する3年次の「長期フィールドワーク」の計画を立案する時期となる教職に関するテーマについては教職教員にも相談する。
3年次	1・2 クォーター	1～2クォーターにまたがる海外でのフィールドワークが始まる。異文化の社会について、生態環境、社会、文化、政治、経済、歴史など、複眼的に捉え、異文化に身を置くフィールドワークを通じて、対象とする社会を総合的に理解する能力向上を図り教員としての素養を磨く。 学際的な分野として異なる分野の方法や考え方の総合的な利用、フィールドワークの調査方法を学び地域研究を行うための素地を養う。これら経験により教員を目指す自立した人間としての成長を期待する。
	3・4 クォーター	教職の基礎的理解に関する科目の主要な部分の単位取得を目標とする。学科においてはフィールドワークの調査・研究に関する報告書を作成、展示発表することにより、学びの成果を他者へ伝達する技能を習得する。教科の指導法に関する科目にて教育実践力を養成する。 模擬体験や事例研究、教材試用、指導案作成などのプラクティカルな授業のなかで社会科教育の手法について習熟の度合いを深めていくとともに、これまでに学んだ教育に関する理論と方法を復習し、教員としての資質能力を総合的に向上させる。
4年次	1・2 クォーター	教職課程においてすなわち教育実習に赴く時期であり、事前指導にて今までの学習の成果を検証、総括する。 学校現場で生徒たちと交わる実体験を通して、楽しさも難しさも含めた教職の醍醐味を実感する。数週間の実習期間の中で、教員として自分には何が出来て何が出来ないのかを認識し、足りない部分は克服すべき課題として持ち帰り、後半の学習につなげる。
	3・4 クォーター	教育実習で得られた社会科教師としての課題を克服するため、事後指導、教職実践演習にて弱点を克服する。 第3クォーターに引き続き、事後指導と教職実践演習による総決算の時期。教員として足りない知識や技術をブラッシュアップし、授業で培った専門的な技能と見識をいかに各教科の教育へリンクさせるかを各自で思案し、4年間で獲得した実践知を生徒に指導できる自らの方法論を確立する。

■メディア表現学部メディア表現学科 認定課程:高一種免(情報)

1) 教員養成の目標

メディア表現学科では技術革新が進む人類社会において、急激に変化し続けるメディアと産業システムの動向をふまえたうえで、豊かな文化の発展に寄与し、時代の先端を切り開くコンテンツ、メディア、新たなビジネスモデルを創造できる人材養成を目的としている。本学科ではこれらの取組にて得た知識を教育現場で伝えるため、メディアと情報(技術)に関する基本的な知識と理解を修得し情報技術を適切に活用することの出来る教員、デザイン思考とアート思考を用い、答えがない課題に対し創造的に取り組み、今後の Society5.0(超スマート社会)に主体的に参画することが出来る教員の育成を目標としている。

2) 目標達成のための計画

履修年次		目標達成のための段階的計画
年次	時期	
1年次	1・2 クォーター	「課程」や「履修制度」の仕組みを知り、大学生活の基礎を学ぶ。学生は初年次から開設している入門的位置づけの教職関連科目を履修することで、「教育」についての理解を深めつつ、今後の教職課程履修の有無について判断する材料とする。 教職関連科目を通じて視野を拡張し、今後の学びの可能性を広げ、自らの学習計画の向上と改善を目指す。
	3・4 クォーター	入門的位置づけの教職関連科目、66 条の 6 に該当する科目を履修し、1 年次での取得を目指す。履修することで理解を深め、今後の教職課程継続について客観的な判断をする時期となる。
2年次	1・2 クォーター	教職課程履修に関する覚悟を固める課程登録手続きが発生する年次となる。そのため学科と教職課程の両立に向けての履修計画を立案する。一方で教職の基礎的理解に関する科目取得に本格的に取り組む。 教科に関する科目の基礎的な理解を深めながら、教職課程に関連する科目の単位取得を目指す。
	3・4 クォーター	2 年次後半の教職の基礎的理解に関する科目を履修し、教員になるための理解を深めつつ、教科に関する科目も集中的に取得する時期となる。 教職課程の科目について学び、教科に関する科目の取りこぼしがないか確認する。
3年次	1・2 クォーター	教科教育法にて教育実習における授業運営の基礎を学ぶ。前クォーターに引き続き教科教育法にて教育実習の準備を進める。また教科に関する科目において更に専門知を高める。
	3・4 クォーター	3 年次後半にて教職の基礎的理解に関する科目の主要な部分の単位取得を目標とする。 模擬体験や事例研究、教材試用、指導案作成などのプラクティカルな授業のなかで情報科教育の手法について習熟の度合いを深めていくとともに、これまでに学んだ教育に関する理論と方法を復習し、教員としての資質能力を総合的に向上させる。
4年次	1・2 クォーター	教職課程においてすなわち教育実習に赴く時期であり、事前指導にて今までの学習の成果を検証、総括する。 学校現場で生徒たちと交わる実体験を通して、楽しさも難しさも含めた教職の醍醐味を実感する。数週間の実習期間の中で、教員として自分には何が出来る何が出来ないのかを認識し、足りない部分は克服すべき課題として持ち帰り、後半の学習につなげる。
	3・4 クォーター	教育実習で得られた情報科教師としての課題を克服するため、事後指導、教職実践演習にて弱点を克服する。 教員として足りない知識や技術をブラッシュアップし、授業で培った専門的な技能と見識をいかに情報科の教育へリンクさせるかを各自で思料し、4 年間で獲得した実践知を生徒に指導できる自らの方法論を確立する。

資格課程に関して（課程登録前のみなさんへ）

資格課程は、各学部・学科・コースを卒業するためのカリキュラムとはまったく別のカリキュラムとなります。卒業に必要な単位以外に、各課程の専門科目を修得する必要があります。

くわしくは「学習のてびき」の資格課程のページと「資格課程ハンドブック（セイカ・ポータル掲示済）」をご参照ください。

取得可能な資格（所属コースによっては取得できない資格もあります。詳しくは学習のてびきを確認してください。）

- ・博物館学芸員
- ・図書館司書
- ・中学校教諭／高等学校教諭

※これらの資格は、その専門の仕事に就く場合に必要な資格になります。

持っていれば一般的な就職が有利になるというものではありませんのでよく検討してください。

履修の心得

☆教職課程

教職課程は中学校、高等学校教員として働くのに必要な免許状を取得するために設置された課程です。人間の発達段階において、中学生、高校生の時期は感性や豊かな人間性を養う重要な時期であると言えます。本学の教職課程では、そのような重要な時期を担う中学校、高等学校で教職に就く人財として、京都精華大学の教育目標とも共通する「人間を尊重し多様な価値観・文化を受容し」「広い視野と論理的思考に基づき」「多様な人々と共生・協働」できる教師を育成することをめざします。これら方針を理解したうえで、下に記すような熱意ある学生の履修を望みます。

- 教育に関心があり、教員になりたいと思っている人
- 人と関わる仕事がしたいと思っている人
- 粘り強く、継続して学び続ける姿勢を持っている人
- 芸術、文化を通して、地域や社会に役立ちたいと思っている人

☆博物館学芸員課程

博物館法に基づき、博物館において資料の収集や保管、展示、調査研究をおこなう専門的職員を一般に博物館学芸員といいます。「博物館」と呼ばれるものにも様々な館種があり、歴史・自然科学・民族などの博物館だけではなく、動物園、水族館、植物園などにおいても専門職としての職域が開かれています。本学では『博物館法』に定める科目を取得する中で、博物館学芸員に必要な資質・能力を積極的に身につけたいと考える下記のような熱意ある学生の履修を望みます。

- 博物館に興味があり、博物館学芸員になりたい人
- 一成人としてマナーを守り、謙虚な気持ちで博物館実習に臨める人
- 生涯学習に関心がある人

☆図書館司書課程

図書館とはこれまで生きてきた人びとが積み重ねてきた表現活動資料が蓄積された場です。図書館司書はこのような資料を守り、人びととつなげる役割を果たす人たちのことです。現在の図書館は、情報技術のめざましい発展により、図書館相互のネットワーク機能や館内の検索機能、所蔵品データベースの多機能化、情報の発信などさまざまな機能が向上しています。一方で多様な人びとが利用できるようなサービスの向上などが社会からより一層求められるようになっていきます。図書館司書となる資格を得るためには『図書館法』第5条第1項および本学が定めた規定に基づく条件を満たす必要がありますが、同時にこのような現在の社会状況を認識し、対応できる人材とならなくてはなりません。

本学図書館司書課程では以下のような熱意ある学生の履修を望みます。

- 生涯学習に関心がある人
- 資料収集・分析に取り組むことができる人
- 粘り強く、継続して学び続ける姿勢を持っている人
- コミュニケーション能力のある人
- 芸術、文化などの面で自らの知識を伸ばし、地域や社会に役立ちたいと思っている人

※資格課程登録は2年生の5月にさせていただきますが、資格課程登録を迷っている1年生の方はまずは1年次に以下の科目を受講して自身に向いているか確認することもよいでしょう。

教職課程→「教育原論」、「教育心理学」、「教育制度論」

博物館学芸員課程→「博物館概論」

図書館司書課程→「図書館概論」

資格取得の条件（資格課程ハンドブック P.1）

☆2年生の5月に希望する資格の課程登録を行うこと

※課程登録の際には登録料を納めていただく必要があります。

☆卒業までに必要な専門科目の単位をすべて修得すること

※すべての必要な単位を修得できていても課程登録を行わなければ資格は取得できません。

☆大学を卒業すること

※すべての必要な単位を修得できていても大学を卒業できなければ資格は取得できません。

大学を卒業するために必要な単位数

124 単位

※卒業するために修得すべき単位には様々な条件があります。学習のてびきで、学部・学科・コースの卒業要件を確認ください。

資格を取得するために必要な単位数

- ・博物館学芸員課程 23 単位（うち学芸員専門科目 19 単位）
- ・図書館司書課程 26 単位（すべて司書専門科目）
- ・教職課程 71 単位*（うち教職専門科目：中学 37 単位／高校 29 単位）

*教職課程は所属コースによって修得が必要な選択科目単位数が異なります

※資格専門科目の単位は卒業要件に含まれませんので、卒業に必要な 124 単位に加えて上記の専門科目の単位を取得する必要があります。つまり卒業と同時に資格を取得するのは簡単ではありませんので、本当にその資格が自分に必要なのかよく検討する必要があります。

★博物館学芸員課程と教職課程においては資格を取得するために学外実習に行く必要があります

- ・博物館実習（学芸員志望者／4 年次／1～2 週間）
- ・介護等体験（教員免許の内、中免希望者／3 年次／7 日間）
- ・教育実習（教員免許希望者／4 年次／2～3 週間）

※図書館司書課程には「図書館実習」科目がありますが、選択科目のため必須ではありません。

※各実習に行くためには条件があります。

実習に行く際の交通費や介護等体験費、教育実習に関わる経費など、課程登録料とは別に様々な支払いが生じる可能性があります。

また実習中の就職活動は禁止されています。

3つの資格の求職事情

・博物館学芸員、図書館司書

国立、公立の館の職員になるには公務員試験に合格する必要があります。また、学芸員、図書館司書は正職員での求人はかなり少なく、契約職員やアルバイト等、非正規での雇用が増えています。

下記サイト等にて求人を確認することができます。

Internet Museum <http://www.museum.or.jp/> / 学芸員募集の掲示板

日本図書館協会 <https://www.jla.or.jp/> / 図書館職員求人情報

・教職課程

京都府や大阪府立、京都市立といった公立学校の専任教員になるためには採用試験を受験し、合格する必要があります。採用試験は4年生の夏頃に行われるところがほとんどですので、就職活動や卒業制作、卒業論文の時期と重なる可能性があることに留意してください。

☆就職活動と資格取得のための学外実習について

就職活動の時期と、実習の時期がバッティングする可能性があります。

実習中の就職活動は原則禁止されているため、実習を優先する必要があります。

ここまでは、大学の資格課程で取得できる資格について紹介してきました。

では、みなさんから質問が多い一般的な就職に向けて役に立つ資格やスキルとはなんですか？

(キャリア支援の観点から)

この資格があれば、就職に一概に役立つという資格はありません。

就職活動では、「大学時代をどのように過ごしたのか」が必ず問われます。そのため資格ではなく、留学や部活、サークルなど学内での課外活動や、インターンシップやボランティアに参加するなど学外での活動に積極的に取り組むことの方が大切です。

またクリエイティブ職を目指す人は、作品審査があるため制作技術によって判断されます。早めにより作品をまとめておくことが大切です。

総合職・一般職を目指す方へ

以下の資格は一部の職種ではとても重宝されます。

- ・事務職を目指す方は、簿記（1～2級）やMOS（マイクロソフトオフィススペシャリスト）に取り組みましょう。
- ・英語をアピールしたい人は、TOEIC600点以上が目安です。

クリエイティブ職を目指す方へ

業界や職種によって求められるスキルや技術が異なるため、制作すべき作品も異なります。遅くとも3年生になったら、業界・職種を定めてポートフォリオを進めましょう。

以下は、クリエイティブ職で重視される技術の一例です。

- ・Adobe系基本ソフト：Illustrator, Photoshop, Indesign
- ・3D・ゲーム：Maya, Unity, 3ds Max
- ・Web系：HTML, CSS, Python
- ・映像系：Premier, AfterEffects

それぞれの進路に応じて必要になる技術やスキル、経験が異なりますので、進路に悩むときは、本館のキャリア支援チームまで相談に来てください。

最後に

繰り返しになりますが、資格課程で取得できる3つの資格はその職業に就くための資格であり、一般的な就職が有利になるものではありません。ただし、その課程で学ぶ内容は進路を問わず、教養として貴重な糧となります。教職課程では教育関係の知識、学芸員課程では美術品等の取扱や展覧会企画など、司書課程では情報分析についての考え方などが学べます。資格を取得するのは簡単ではありませんが、教務チームも応援しますので頑張ってください。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

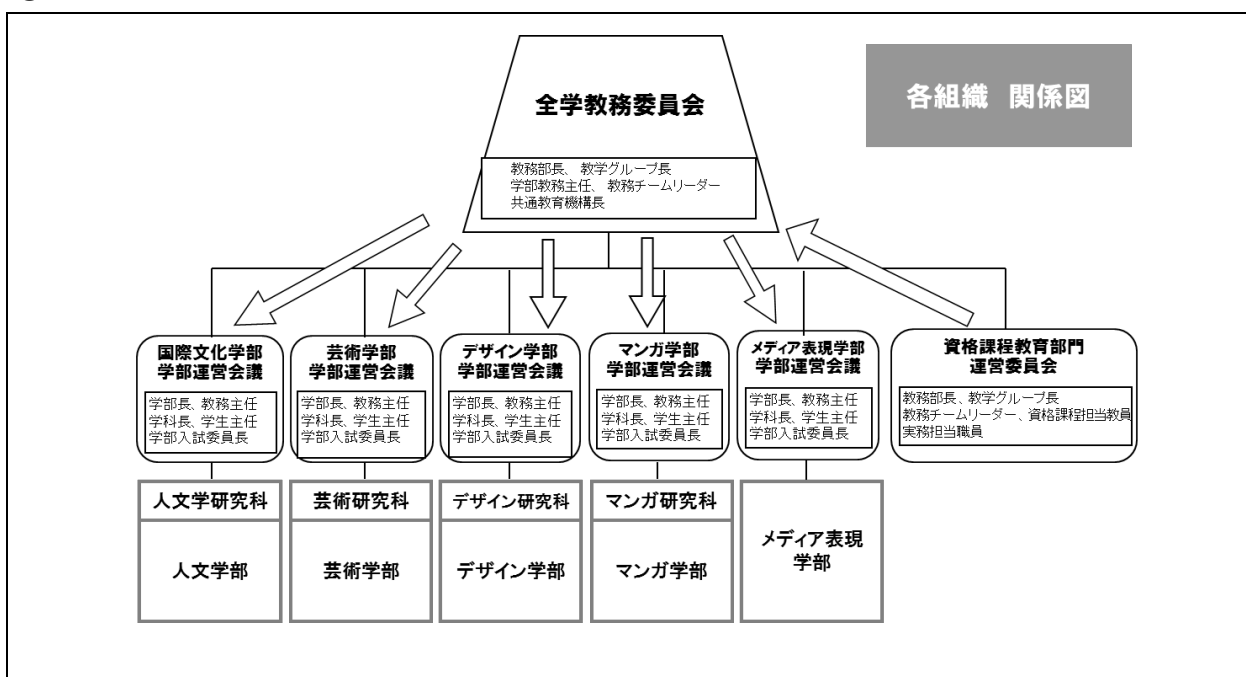
組織名称：	全学教務委員会
目的：	全学にわたる教育活動の向上を推進するため、教務に関する各種事項を審議する。
責任者：	全学教務委員会委員長
構成員（役職・人数）：	教務部長 1名、教学グループ長 1名、学部教務主任 5名、教務チームリーダー1名、共通教育機構長 1名、教学担当副学長 1名
運営方法：	毎月 1 回、教職課程運営を含む教学全般に関する企画の発議や各種問題・課題の審議をおこない、開催の都度、学長に議事録を添えて報告提案をおこなう。この場において各学部教務委員会や資格課程教育部門運営委員会等で協議された教学上の諸事案が集約され、情報及び課題の共有や、各学部間での連絡調整がはかられる。

②

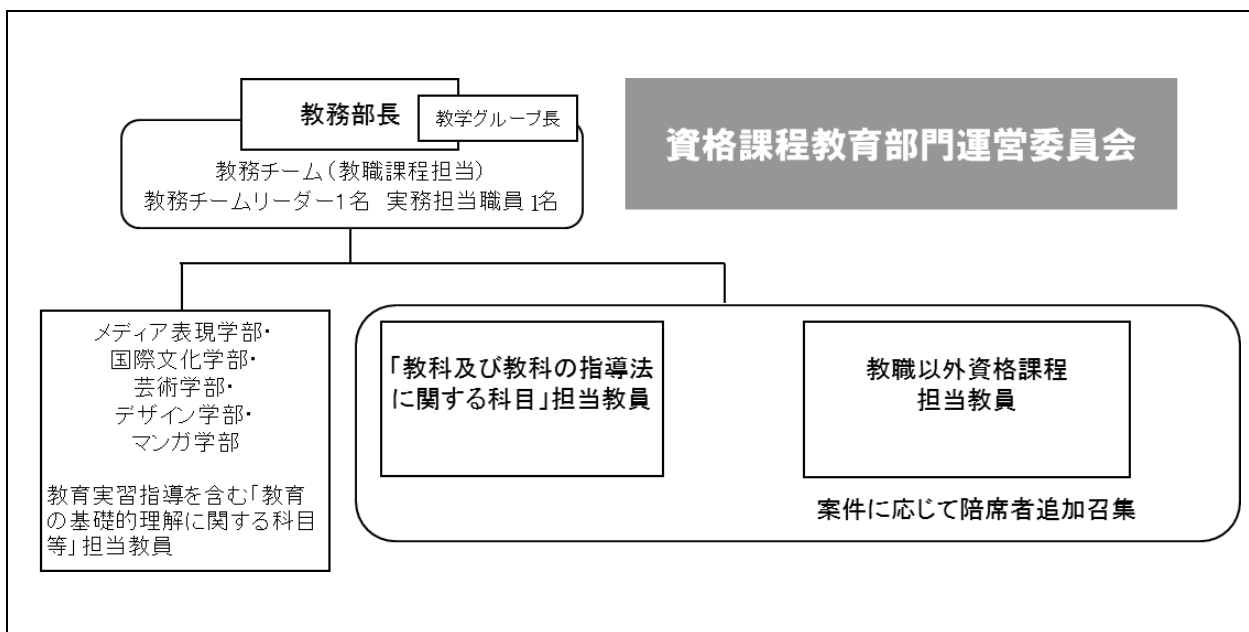
組織名称：	共通教育機構（資格課程教育部門運営委員会）
目的：	教職課程を含む大学に設置された各種資格課程の運営について協議する。
責任者：	各学部教務主任
構成員（役職・人数）：	「教育の基礎的理解に関する科目等」担当者 3名（部門長含む）、「教科及び教科の指導法に関する科目」担当者 3名、教職課程以外の課程担当者 3名、教学グループ長 1名、資格課程担当事務職員 2名
運営方法：	毎月 1 回、教職課程運営を含む教学全般に関する企画の発議や各種問題・課題の審議をおこなう。この場において各学部教務委員会や資格課程教育部門運営委員会等で協議された教学上の諸事案が集約され、情報及び課題の共有や、各学部間での連絡調整がはかられる。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図

①



②



ABOUT SEIKA

[HOME](#) ▶ [大学紹介](#) ▶ [事業報告・学則・評価](#)

事業報告・学則・評価

Business Reports/Regulations/Assessment

- ▼ (法人) 事業計画・報告
- ▼ (法人) 財務に関する資料
- ▼ (法人) 一般事業主行動計画
- ▼ ガバナンス・コードについて
- ▼ 公的研究費の運営・管理
- ▼ 学則・教学に関する資料
- ▼ 大学評価
- ▼ 設置届出書
- ▼ 高等教育の修学支援新制度
- ▼ 私立大学研究ブランディング事業
- ▼ FD・学生アンケート
- ▼ キャリアに関する卒業生・企業等アンケート

(法人) 事業計画・報告

- ↳ 2022年度事業計画書 (1.3MB)
- ↳ 2021年度事業報告書 (1.7MB)
- ↳ 2020年度事業報告書 (2.7MB)
- ↳ 2019年度事業報告書 (866KB)
- ↳ 2018年度事業報告書 (874KB)
- ↳ 2017年度事業報告書 (791KB)
- ↳ 2016年度事業報告書 (917KB)

(法人) 財務に関する資料

財務諸表

- ↳ 財産目録 2022年3月31日現在 (38KB)
- ↳ 貸借対照表 2022年3月31日現在 (38KB)
- ↳ 資金収支計算書 2021年4月1日～2022年3月31日 (49KB)
- ↳ 活動区分資金収支計算書 2021年4月1日～2022年3月31日 (53KB)
- ↳ 事業活動収支計算書 2021年4月1日～2022年3月31日 (50KB)
- ↳ 監査報告書 2022年5月28日 (34KB)

財務諸表補足資料

- ↳ 2021年度 決算の概要 (622KB)

- ↳ 2021年度 決算総括表 (150KB)
- ↳ 2021年度 各種財務比率 (193KB)

(法人) 一般事業主行動計画

次世代育成支援対策推進法に基づく「一般事業主行動計画」の策定について

2005年4月1日から「次世代育成支援対策推進法」が全面施行されました。

この法律では、次世代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成される環境の整備を行うため、101人以上の労働者を雇用する事業主は、仕事と子育ての両立を図るための行動計画を策定し実施することとされています。本学でも働きやすい環境づくりを目指し、一般事業主行動計画を策定しています。

- ↳ 学校法人京都精華大学 行動計画 2020年7月1日～2023年6月30日 (96KB)

女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく「一般事業主行動計画」の策定について

2016年4月1日から「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が施行されました。

この法律では、女性の個性と能力が十分に発揮できる社会を実現するため、301人以上労働者を雇用する事業主は、女性労働者の活躍を推進するための行動計画を策定し実施することとされています。本学でも、女性が活躍できる環境づくりを目指し、一般事業主行動計画を策定しています。

- ↳ 学校法人京都精華大学 行動計画 2023年2月1日～2026年1月31日 (118KB)

ガバナンス・コードについて

本法人では建学の理念に基づき、自主的かつ自律的に学校法人を運営し、将来を担う多様な人材を育成するとともに、教育研究活動とそこから得られた成果を通じて社会や地域に貢献すること、社会の要請に応える公共性に鑑んだ健全な大学運営に努めています。

学生、保護者、教職員のみならず広く社会からの信頼を得られるよう、説明責任を果たすとともに、透明性の確保と教育研究活動の維持、継続ならびに発展に努めていくため、本法人が加盟する日本私立大学連盟が策定した「私立大学ガバナンス・コード」に準拠し、適切なガバナンスを確保して、時代の変化に対応した大学づくりを進めていきます。

今後ともガバナンス・コードに定める「コンプライ・オア・エクスプレイン」の精神に則り積極的な情報公表を行い、教育の質の向上及び運営の透明性の確保に尽力していきます。

関連資料

- ↳ 日本私立大学連盟 私立大学ガバナンス・コード (407KB)
- ↳ 私立大学ガバナンス・コード遵守状況報告書 (2021年度) (418KB)

公的研究費の運営・管理

- ↳ 公的研究費の適正な運営・管理について

学則・教学に関する資料

学則

- ↳ 京都精華大学 学則（2021年度以降入学生）（734KB）
- ↳ 京都精華大学 学則（2020年度以前入学生）（613KB）
- ↳ 京都精華大学 大学院 学則（519KB）
- ↳ 京都精華大学 履修規程（411KB）
- ↳ 京都精華大学 学位規程（319KB）
- ↳ 京都精華大学 大学院 芸術研究科学位（課程博士）審査規則（173KB）
- ↳ 京都精華大学 大学院 芸術研究科学位（論文博士）審査規則（300KB）
- ↳ 京都精華大学 大学院 マンガ研究科学位（課程博士）審査規則（418KB）
- ↳ 京都精華大学 大学院 マンガ研究科学位（論文博士）審査規則（293KB）
- ↳ 京都精華大学 大学院 博士前期課程および修士課程学位審査規則（138KB）

学校法人京都精華大学の管理運営および京都精華大学の教学に関する方針

- ↳ 学校法人京都精華大学の管理運営に関する方針（68KB）
- ↳ 内部質保証に関する方針（201KB）
- ↳ 社会連携・社会貢献に関する方針（59KB）
- ↳ 大学として求める教員像および教員組織の編成方針（57KB）
- ↳ 京都精華大学の教育研究等環境の整備に関する方針（69KB）
- ↳ 学生の支援に関する基本方針（66KB）
- ↳ 京都精華大学ダイバーシティ推進宣言（和文）（78KB）
- ↳ 京都精華大学ダイバーシティ推進宣言（英文）（48KB）
- ↳ 障害学生支援に関する基本方針（127KB）

大学評価

2015年度 評価結果

本学は、公益財団法人大学基準協会による大学評価の結果、同協会が定める大学基準に適合していると認定されました。

認定期間は2016年4月1日～2023年3月31日です。

- ↳ 京都精華大学 自己点検・評価報告書（2.3MB）
- ↳ 京都精華大学に対する大学評価結果ならびに認証評価結果（487KB）
- ↳ 大学基礎データ（2015年度申請用）（374KB）



2008年度 評価結果

本学は、公益財団法人大学基準協会による大学評価の結果、同協会が定める大学基準に適合していると認定されました。

認定期間は2009年4月1日～2016年3月31日です。

- ↳ 京都精華大学 自己点検・評価報告書 (16MB)
- ↳ 京都精華大学に対する大学評価結果ならびに認証評価結果 (679KB)

2008年度に受審した大学評価の評価結果について、付された提言に対する「改善報告書」並びに、デザイン学部、マンガ学部に対する「完成報告書」を、2012年6月に大学基準協会に提出しました。

また、それらの報告書について、2013年3月15日付で大学基準協会より検討結果が通知されました。

- ↳ 提言に対する改善報告書 (164KB)
- ↳ 京都精華大学 完成報告書 (デザイン学部) (164KB)
- ↳ 京都精華大学 完成報告書 (マンガ学部) (159KB)
- ↳ 改善報告書ならびに完成報告書に対する検討結果 (1.6MB)

自己点検・評価

- ↳ 学校法人京都精華大学 外部評価委員会所見一覧 2022年度版 (425KB)
- ↳ 学校法人京都精華大学 自己点検・評価報告書 2021年度版 (1.7MB)
- ↳ 学校法人京都精華大学 自己点検・評価報告 (抜粋) 2019年度版 (750KB)
- ↳ 京都精華大学 自己点検・評価報告書 2015年度版 (2.3MB)
- ↳ 京都精華大学 自己点検・評価報告書 2012年度版 (1.1MB)
- ↳ 京都精華大学 自己点検・評価報告書 2008年度版 (16MB)

建物の耐震化率について

- ↳ 学校法人京都精華大学 建物の耐震化率について (131KB)

キャンパス・ライフアンケート

本学での生活状況や学修状況など学生のキャンパスライフをデータで把握することを目的に、学生および大学院生を対象にアンケート調査を行いました。

- ↳ キャンパス・ライフアンケート (2021年度) (1.7MB)
- ↳ キャンパス・ライフアンケート (2020年度) (849KB)
- ↳ キャンパス・ライフアンケート (2019年度) (632KB)
- ↳ キャンパス・ライフアンケート (2018年度) (550KB)
- ↳ キャンパス・ライフアンケート (2017年度) (580KB)
- ↳ キャンパス・ライフアンケート (2016年度) (480KB)

大学基礎データ

- ▷ 大学基礎データ（2022年度）（1.1MB）
- ▷ 大学基礎データ（2021年度）（1.1MB）
- ▷ 大学基礎データ（2020年度）（1.3MB）
- ▷ 大学基礎データ（2019年度）（1.3MB）
- ▷ 大学基礎データ（2018年度）（1.1MB）
- ▷ 大学基礎データ（2017年度）（1.0MB）

設置届出書

国際文化学部（2021年度開設） 設置届出書

1. 基本計画書
2. 教育課程の概要
3. 授業科目の概要
4. 校地校舎等図面
5. 学則
6. 設置の趣旨等
7. 教員名簿

メディア表現学部（2021年度開設） 設置届出書

1. 基本計画書
2. 教育課程の概要
3. 授業科目の概要
4. 校地校舎等図面
5. 学則
6. 設置の趣旨等
7. 教員名簿

- ▷ ポピュラーカルチャー学部（2013年度開設） 設置届出書 2012年4月23日（2.1MB）
- ▷ デザイン学部 イラスト学科（2013年度開設） 設置届出書 2012年4月23日（2.6MB）
- ▷ 大学院 マンガ研究科 [博士後期課程]（2012年度開設） 設置届出書 2011年5月28日（3.1MB）
- ▷ 大学院 デザイン研究科 [修士課程]（2010年度開設）・大学院 マンガ研究科 [修士課程]（2010年度開設）
設置届出書 2009年6月26日（6.6MB）
- ▷ 人文学部 総合人文学科（2009年度開設） 設置届出書 2008年4月28日（1.1MB）

高等教育の修学支援新制度

京都精華大学は、2020年4月から国が実施している住民税非課税および非課税に準ずる世帯等を対象とした「高等教育の修学支援新制度」（授業料等減免、給付型奨学金）の対象機関として認定を受けました。

機関要件に関する確認申請書の公表

- ↳ 2022年度 大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る申請書（様式第2号の1～4）
（602KB）
- ↳ 2021年度 大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る申請書（様式第2号の1～4）
（981KB）
- ↳ 2020年度 大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る申請書（様式第2号の1～4）
（519KB）
- ↳ 2019年度 大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る申請書（775KB）

私立大学研究ブランディング事業

京都精華大学は、文部科学省平成30年度「私立大学研究ブランディング事業（タイプB：世界展開型）」の支援対象校に選定されました。2018～2020年度の3年間で「持続可能な社会に向けた伝統文化の『表現』研究」を活用し、大学のブランド力を強化します。

- ↳ 私立大学研究ブランディング事業成果報告書（275KB）
- ↳ 私立大学研究ブランディング事業計画書（876KB）
- ↳ 2020年度進捗報告（190KB）
- ↳ 2019年度進捗報告（187KB）
- ↳ 2018年度進捗報告（257KB）

FD・学生アンケート

学生による授業評価

本学では、FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環として「授業アンケート」を行っています。学生の皆さんの声を広く汲み取り、教学内容や方法を検証し、改善することが目的です。

できるだけ客観的で統一的な評価方法を確立するため、2006年度より全学的な取り組みを開始しました。アンケート結果は科目担当教員にフィードバックされ、教員が講評や改善点を回答する仕組みとなっています。

- ↳ 2019年度 授業アンケート結果
- ↳ 2018年度 授業アンケート結果
- ↳ 2017年度 授業アンケート結果
- ↳ 2016年度 授業アンケート結果
- ↳ 2015年度 授業アンケート結果

新入生アンケート

新入生の入学段階での指向や学修状況を把握して、今後の本学の教育や学生支援の質向上を図るためのデータとして活用することを目的としています。

↳ 2022年度 新入生アンケート (1.4MB)

↳ 2021年度 新入生アンケート (514KB)

↳ 2020年度 新入生アンケート (303KB)

↳ 2019年度 新入生アンケート (428KB)

↳ 2018年度 新入生アンケート (1.7MB)

卒業時アンケート

4年間を通じた学びの成果を把握し、教育の質向上を図ることを目的に、卒業前の4年生を対象にアンケート調査を行いました。

↳ 2021年度 卒業時アンケート集計結果報告 (1.2MB)

↳ 2020年度 卒業時アンケート集計結果報告 (568KB)

↳ 2019年度 卒業時アンケート集計結果報告 (488KB)

↳ 2018年度 卒業時アンケート集計結果報告 (379KB)

↳ 2017年度 卒業時アンケート集計結果報告 (405KB)

↳ 2016年度 卒業時アンケート集計結果報告 (1.1MB)

キャリアに関する卒業生・企業等アンケート

卒業後の進路・就職状況および企業等における本学学生の就職状況から、本学の教育成果を検証し、改善を図ることを目的に実施しています。

↳ 2021年度 卒業生に対する進路・就職状況アンケート調査結果 (629KB)

↳ 2021年度 就職先企業等に対するキャリアアンケート調査結果 (335KB)

↳ 2020年度 卒業生に対する進路・就職状況アンケート調査結果 (436KB)

↳ 2020年度 就職先企業等に対するキャリアアンケート調査結果 (361KB)

ABOUT SEIKA

[HOME](#) ▶ [大学紹介](#) ▶ [大学情報の公表](#)

大学情報の公表

University Data

[▼ 教育研究上の基本的な情報](#) [▼ 修学上の情報](#) [▼ 在学生に関わる規程](#)[法人および大学組織図・寄附行為・役員](#) →[公的研究費の適正な運営・管理について](#) →

教育研究上の基本的な情報

[教育の3つの方針](#) →

1. 学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的

- 人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的（学部）[PDF]
- 人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的（大学院）[PDF]

2. 専任教員数

- 教員数
- 専任教員数（学部）（54KB）
- 専任教員数（大学院）（43KB）
- 専任教員・非常勤教員比率（38KB）
- 教員年齢帯分布（55KB）
- 任期制教員に関する規程（288KB）

3. 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境

- キャンパスマップ
- 交通アクセス

4. 授業料、入学料そのほかの大学等が徴収する費用

- ↳ 学費（学部 / 大学院）
- ↳ 奨学金制度（学部 / 大学院）

教育研究上のその他の情報

教育条件

- ↳ 教員一人当たりの学生数（169KB）
- ↳ 収容定員充足率（101KB）
- ↳ 入学定員充足率（75KB）

就職状況

- ↳ 芸術学部 就職先の情報
- ↳ デザイン学部 就職先の情報
- ↳ マンガ学部 就職先の情報
- ↳ ポピュラーカルチャー学部 就職先の情報
- ↳ 人文学部 就職先の情報

国際交流・社会貢献等の概要

- ↳ 留学生数
- ↳ 海外派遣学生数（交換留学プログラム）
- ↳ 海外派遣学生数（海外フィールドプログラム）
- ↳ 留学率（87KB）
- ↳ 協定校リスト
- ↳ 大学間連携 / 産官学連携

修学上の情報

1. 教員組織、各教員が有する学位及び業績

- ↳ 国際文化学部 教員紹介
- ↳ メディア表現学部 教員紹介
- ↳ 芸術学部 教員紹介
- ↳ デザイン学部 教員紹介
- ↳ マンガ学部 教員紹介
- ↳ 人文学部 教員紹介

- ↳ ポピュラーカルチャー学部 教員紹介
- ↳ 芸術研究科 教員紹介
- ↳ デザイン研究科 教員紹介
- ↳ マンガ研究科 教員紹介
- ↳ 人文研究科 教員紹介

教員が有する学位および卒業学校

- ↳ 芸術学部
- ↳ デザイン学部
- ↳ マンガ学部
- ↳ ポピュラーカルチャー学部
- ↳ 人文学部

2. 入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数

- ↳ 入学者に関する受入方針
- ↳ 入学者数（学部・大学院）
- ↳ 学部、学科、入学定員および収容定員（京都精華大学 学則 第3条）
- ↳ 研究科 入学定員および収容定員（京都精華大学 大学院 学則 第5条）（PDF：384KB）
- ↳ 学生数・教員数
- ↳ 卒業（修了）者数、進学者数、就職者数

3. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画（シラバス又は年間授業計画の概要）

- ↳ 学習のてびき2023（2021年度以降入学生用）
- ↳ 学習のてびき2023（2017～2020年度入学生用）
- ↳ シラバス検索システム

4. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（必修・選択・自由科目別必要単位修得数及び取得可能学位）

学部

- ↳ 教育課程・単位・教育課程の履修（京都精華大学 学則 第3章）[PDF]
- ↳ 教育課程修了の認定・単位の授与・卒業および称号（京都精華大学 学則 第4章）[PDF]
- ↳ 授業科目および単位数（京都精華大学 学則 別表I 教育課程 I～IV）[PDF]

大学院

- ↳ 課程の修了および学位（京都精華大学 大学院 学則 第5章）[PDF]
- ↳ 授業科目および単位数（京都精華大学 大学院 学則 別表 第3-1～3-4）[PDF]

5. 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

- ↳ 学びの支援
- ↳ 学生生活
- ↳ 就職サポート

6. 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

国際文化学部

カリキュラムマップ

文学専攻	PDF
歴史専攻	PDF
社会専攻	PDF
日本文化専攻	PDF
グローバル関係専攻	PDF
グローバル共生社会専攻	PDF
アフリカ・アジア文化専攻	PDF

メディア表現学部

カリキュラムマップ

メディア情報専攻	PDF
イメージ表現専攻	PDF
音楽表現専攻	PDF

芸術学部

カリキュラムマップ
(2021年度以降入学生用)

カリキュラムマップ
(2017～2020年度入学生用)

造形学科	PDF	PDF
洋画専攻		
日本画専攻		
立体造形専攻		
陶芸専攻		
テキスタイル専攻		
版画専攻		
映像専攻		

↳ メチエ基礎

↳ 体幹教育

デザイン学部

	カリキュラムマップ (2021年度以降入学生用)	カリキュラムマップ (2017～2020年度入学生用)
イラストコース	PDF	PDF
グラフィックデザインコース	PDF	PDF
デジタルクリエイションコース	PDF	PDF
プロダクトコミュニケーションコース	PDF	PDF
ライフクリエイションコース	PDF	PDF
ファッションコース	PDF	PDF
建築コース	PDF	PDF

↳ 学部共通科目

マンガ学部

	カリキュラムマップ (2021年度以降入学生用)	カリキュラムマップ (2017～2020年度入学生用)
カートゥーンコース	PDF	PDF
ストーリーマンガコース	PDF	PDF
新世代マンガコース	PDF	PDF

キャラクターデザインコース	PDF	PDF
アニメーションコース	PDF	PDF

↳ 学部共通科目

ポピュラーカルチャー学部

[カリキュラムマップ](#)

音楽コース	PDF
ファッションコース	PDF

↳ 学部共通科目

人文学部

[カリキュラムマップ](#)

文学専攻	PDF
歴史専攻	PDF
社会専攻	PDF

↳ 学部共通プログラム

↳ 学部共通カリキュラムマップ (1.1MB)

大学院

↳ 芸術研究科

↳ デザイン研究科

↳ マンガ研究科

↳ 人文学研究科

7. 教職課程の状況

↳ 教員養成目標および目標達成計画 (331KB)

↳ 教員養成組織及び教員数_教員別担当授業科目 (508KB)

↳ 教職課程関連授業科目 (1.1MB)

↳ 卒業生の教員免許状取得状況 (105KB)

↳ 卒業生の教職就業状況 (96KB)

↳ 教員養成に係る教育の質的向上に向けた取組 (192KB)

8. 語学実績状況

↳ 語学実績状況 (221KB)

大学院 博士号授与状況

↳ 大学院 博士号授与状況 (34KB)

在学生に関わる規程

学生生活を送るうえで必要な本学の諸規程です。今後内容に変更が生じた場合は都度更新いたします。

- ↳ 京都精華大学 学則 (2021年度以降入学生)
- ↳ 京都精華大学 学則 (2020年度以前入学生) (613KB)
- ↳ 京都精華大学 大学院 学則 (395KB)
- ↳ 京都精華大学学費・手数料等納入規程 (327KB)
- ↳ 京都精華大学学籍管理および学費徴収に関する運用細則 (165KB)
- ↳ 京都精華大学外国人留学生の入学・在留資格および在籍管理に関する規程 (212KB)
- ↳ 京都精華大学外国人留学生の入学・在留資格および在籍管理規程の運用に関する細則 (240KB)
- ↳ 京都精華大学学位規程 (289KB)
- ↳ 京都精華大学履修規程 (651KB)
- ↳ 京都精華大学転学部および転学科に関する規程 (226KB)
- ↳ 京都精華大学海外留学規程 (234KB)
- ↳ 京都精華大学入学試験成績優秀特待生規程 (224KB)
- ↳ 京都精華大学資格取得特待生規程 (258KB)
- ↳ 京都精華大学私費外国人留学生EJU成績優秀特待生規程 (275KB)
- ↳ 京都精華大学公認学生団体に関する規程 (243KB)
- ↳ 京都精華大学学生の施設使用規程 (217KB)
- ↳ 京都精華大学情報館利用規程 (294KB)
- ↳ 京都精華大学情報館利用細則 (264KB)
- ↳ 京都精華大学学生懲戒規程 (254KB)
- ↳ 学校法人京都精華大学個人情報の保護に関する方針 (375KB)
- ↳ 学校法人京都精華大学における個人情報の保護に関する規程 (271KB)
- ↳ 学校法人京都精華大学個人情報取扱基準 (288KB)

資格課程ハンドブック

2022年度版

<u>資格課程全般に関して</u>	<u>P.1～</u>
<u>教職課程</u>	<u>P.4～</u>
<u>博物館学芸員課程</u>	<u>P.14～</u>
<u>図書館司書課程</u>	<u>P.19～</u>

担当部署: 教学グループ教務チーム資格課程担当

連絡先電話番号: 075-702-5119

連絡先メールアドレス: kyoumu@kyoto-seika.ac.jp

資格課程全般に関して

1. 資格を取得するためには2年次に必ず課程登録をしてください。

課程登録手続きは次のとおりです。

- (1) 教務チーム窓口で登録カードをもらい、必要事項を記入する(セイカ・ポータルからの登録になる可能性あり)。
- (2) 証明書自動発行機で所定の課程登録料を納付する。
- (3) 登録カードと登録料納付書を教務チーム窓口へ提出する。

課程名	登録料	登録時期
教職課程	30,000 円	※本年度は、5月9日(月)～5月20日(金)
博物館学芸員課程	20,000 円	
図書館司書課程	10,000 円	

※一度納付した登録料は事情を問わず返金できませんので注意してください。

—必ず課程登録をしてもらう理由について—

資格課程受講に際して、授業以外に実習や諸団体への届出等、さまざまな手続きが必要です。卒業時に無事資格を取得できるように、資格課程担当は希望者を把握しておかなければなりません。

登録料は、課程を運営する中で必要となる授業や授業以外の諸活動の費用の一部としています。

2. 資格課程登録者には履修上重要なお知らせを連絡する機会が何度も発生しますので、次の点を心がけてください。

- (1) セイカ・ポータル(学生生活支援総合サイト)をこまめに確認すること。
- (2) 大学から付与されたメールアドレスを毎日確認すること。
- (3) 住所や電話番号など学籍情報に変更があった場合は、ただちにセイカ・ポータルから変更手続きを行うこと。
- (4) 連絡事項に締め日が設けられている場合は、締め切りを厳守すること。

※教務チーム窓口の電話番号を携帯電話に登録して、連絡が取れるようにしてください。

教務チーム代表

075-702-5119

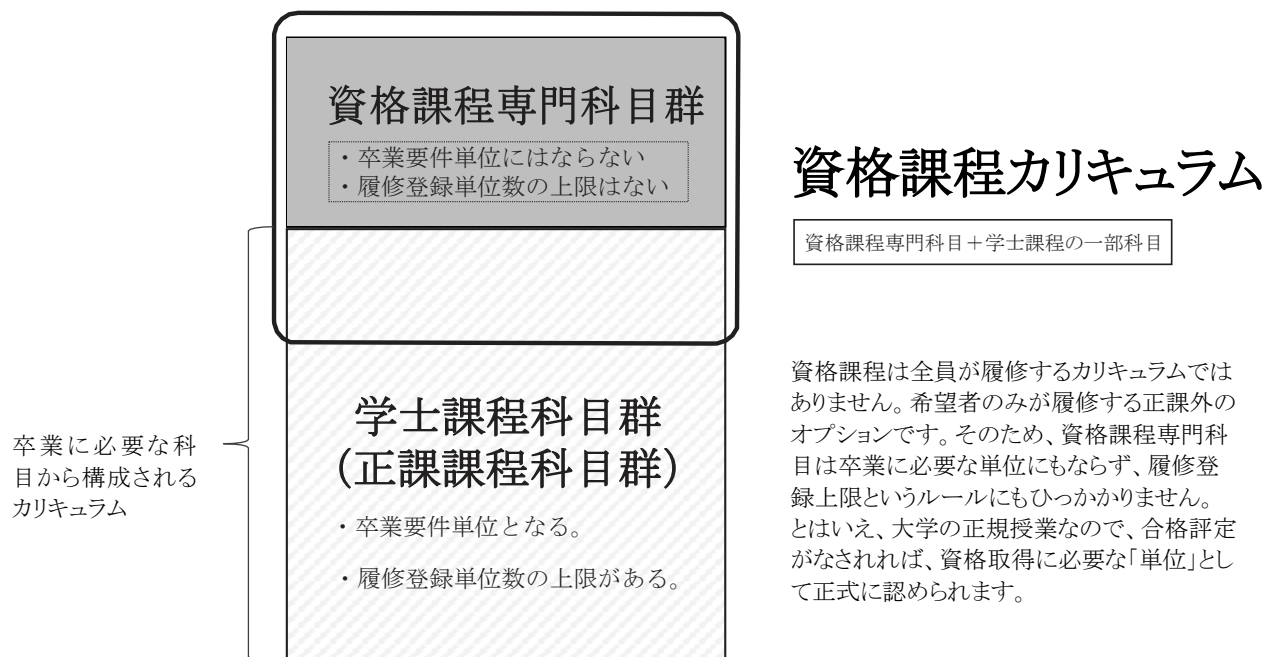
3. 『学習のてびき』およびこのハンドブックには、資格取得に必要な条件が記載されています。内容を理解できるまで、繰り返し読むようにしてください。また不明な点は教務チーム窓口を確認してください。

4. 資格課程を構成する科目には卒業要件単位に含まれないものがあります。また卒業要件単位に含まれない科目は、履修登録上限単位にも含まれません(後ほど図によって説明します)。

5. 交換留学等の大学公認の授業や行事によって本学の通常開講科目を履修できない場合は、履修上の配慮をしますので、予定が確定次第、必ず教務チーム窓口はその旨を届け出てください。また、履修上、なんらかの配慮ができるのは3年次指定の必修科目のみです。4年次における交換留学等については、履修上の配慮ができないこともありますので注意してください。休学については、学生個人の都合によるものなので、原則的に配慮の対象にはなりません。事情によっては対応が可能な場合もありますので、早めに相談に来てください。

6. 授業期間中に教育実習や介護等体験、博物館実習の予定が入り、履修中の授業科目を受講できない場合には、日程のわかる書類を持参のうえ教務チーム窓口で「公欠届」を提出し、事前に授業担当教員へ提出して配慮を仰いでください。
7. 資格課程を履修することが負担に感じられるなど、履修の継続に悩んでいる場合は教務チーム窓口へ相談に来てください。
また、資格課程登録後に進路の変更などにより資格課程の履修を中止する場合も、「資格課程履修中止届（教務チーム窓口に常備）」にて必ず届け出てください。
8. 学部学科コースの正課カリキュラムと同時に、複数の資格課程を履修することは困難です。複数の資格取得を目指したばかりに、正課カリキュラムの単位取得に支障が出ることがないように注意が必要です。 また、教務チーム窓口で複数課程を履修している学生に対して、正課の必修科目と複数資格課程の科目の開講曜日講時が重複しないよう時間割を設定することには限界があります。せっかく納付した課程登録料がむだにならないよう、最大で2種類、できればどれかひとつの資格に的を絞って履修するようにしてください。
9. 資格取得を断念した方でも科目等履修制度を利用して卒業後に資格を取得することができます。 在学中に修得できなかった単位を科目等履修生として修得することによって、修得済み単位と合算して資格取得要件を満たすことができます（ただし今後の法律改正の内容によっては対応が変わる可能性もあります）。
【登録料】15,000 円（1年度間有効） ※履修料とは別途、年度ごとに必要です。
【履修料】15,000 円（1単位） 例：2単位の科目の履修料は 30,000 円となります。
※ 本学大学院在籍者には登録料・履修料が免除される優遇制度があります。
卒業後の資格の取得には余分な出費がかかることとなりますので、在学中に資格取得要件を満たせるようしっかりと勉学に励んでください。
10. 資格課程の履修を希望する編入生は、以下の事項に注意してください。
(1) 履修可能編入年次：2年次編入生に限る
（ただし、次の場合は例外として3年次編入生の履修を認めることがあります。）
教職課程…中二種免を取得した者
博物館学芸員課程…博物館学芸員補の資格を取得した者
図書館司書課程…図書館司書補の資格を取得した者
(2) 履修が可能かどうか個々の状況によって異なりますので、資格課程の履修を希望する編入生は必ず4月初旬までに教務チーム窓口へ相談してください。
11. 転学部・転学科・転コース制度を利用して転籍すると、資格の取得に影響が出る可能性があります。転籍を検討している資格課程履修者は、必ず事前に教務チーム窓口へ相談してください。
12. 教育実習、博物館実習、介護等体験では、学外の施設にてお世話になりますので、身だしなみや言葉づかいには十分に注意してください。遅刻やラフな服装などは厳禁です。学内と同じ態度で臨まず、先方に失礼のないようくれぐれも注意してください。
例) 派手な色に髪を染めていた学生が注意を受けたことがあります。

【補足説明】一部の資格課程と学士課程(正課カリキュラム)との関係、それらの教育課程と卒業要件単位・履修登録上限単位との関係について



※資格課程専門科目は科目ナンバリングコードがCQで始まる科目です。

例) CQT5011101 教育原論 A 、 CQM5001101 博物館概論 、 CQL5000101 図書館概論

まとめ－資格課程を履修する上で大切なこと

- ◇ 課程登録しないと資格を取得できない。
- ◇ セイカ・ポータル(学生生活支援総合サイト)をこまめにチェックする。
- ◇ 大学から付与されたメールアドレスを毎日確認する。
- ◇ 資格課程担当からの電話(075-702-5119)・郵便連絡には応答する。
- ◇ 資格課程担当から指定された締切は必ず守る。
- ◇ 『学習のてびき』を参照する習慣をつける。
- ◇ 履修上の悩みがあればすぐに教務チーム窓口に相談する。
- ◇ 資格取得よりもまず、卒業が優先であることを心得る。

教職課程の基礎

1. 取得できる教育職員免許状

本学で取得できる教育職員免許状の正式な名称は以下のとおりです。カッコ内に記載されているのは教科種別で、所属する学部・学科によって取得可能な免許教科が異なります。

- (1) 中学校教諭一種免許状(美術・国語・社会)
- (2) 高等学校教諭一種免許状(美術・工芸・国語・地理歴史・公民・情報)

2. 教育職員免許状の取得条件

卒業時に教育職員免許状を取得するには、「教育職員免許法」第5条および本学が定めた規程に基づき、以下の条件を満たす必要があります。

【重要】免許状を取得するための条件

- (1) 教職課程登録を済ませていること。
- (2) 所属学部学科を卒業すること。
- (3) 教職課程で定めた科目の単位を修得していること。
- (4) 介護等体験を体験し証明書を提出済みであること(※中一種免許取得希望者のみ)。

3. 免許状取得のための教職課程科目

教職課程は所属する学部学科のカリキュラムとはまったく別の教育課程と考えてください。

免許状を取得するためには、卒業に必要とされる単位以外に、「学習のてびき」に記載されている教職課程で独自に開設している専門科目の単位を最低必要単位以上修得しなければなりません。教職課程の科目種別と法律で定められた最低必要単位数は入学年度により異なりますので、「学習のてびき」の資格課程のページを参照してください。

4. 教職課程に関する注意事項

- (1) 教職課程科目のなかには卒業要件単位としてカウントされる科目があります。
- (2) 卒業要件単位にカウントされない教職課程科目(「教職に関する科目」)は履修登録上限単位に含まれません。
- (3) 教職課程科目を受講するには定められた期間内に課程登録をおこなってください。
※課程登録をせずに教職課程科目を履修しても免許状取得に必要な資格は得られません。
- (4) 中学校免許状の申請には、高等学校免許状と同様の申請条件に加えて、「道徳教育論」等の単位修得、介護等体験の終了およびその証明書が必要となります。
- (5) 課程登録の申込時(2年次)までに、「高等学校・中学校免許状2種類の免許状取得を希望する」のか、「高等学校のみの免許状取得を希望する」のかを決定してください。
※3年次途中で「やはり中学校の免許も欲しい」と心変わりしても、在学中に中一種免許の取得に必要な要件を満たすことは履修状況によって困難です。慎重に判断してください。

※採用試験について

4年次の4月から5月にかけて採用試験の出願期間が設けられる自治体が多いことから、3年次の終了時期に希望する自治体の教育委員会のホームページをチェックするようにしてください。

5. 編入生の教職課程の履修

教職課程の履修を希望する編入生には、以下の条件が求められます。

- (1) 入学年度の4月に教職課程登録を済ませること。
- (2) 2年次編入であること(3年次編入ではカリキュラム設定上、単位修得が困難です)

※ただし3年次編入生でも、なんらかの教員免許状を取得済みである場合や、編入前に在籍した教育機関において修得した単位を本学教職課程の科目として読み替えて単位認定することによって、履修が可能なケースがあります。個々の事情により履修条件が異なりますので、入学後早急に教務チーム窓口まで直接相談にきてください(その際に以前に在籍した教育機関が発行した「学力に関する証明書」を持参してください)。

6. 科目等履修制度を使った教職課程の履修

資格取得を断念した方でも、科目等履修制度を利用して卒業後に資格を取得することができます。在学中に修得できなかった単位を科目等履修生として修得することによって、修得済み単位と合算して資格取得要件を満たすことができます(ただし今後の法律改正の内容によっては対応が変わる可能性もあります)。

7. 教育職員免許状の授与

教職課程において定める科目を履修し、その単位を修得した者には、卒業式以降に本学を通じて京都府教育委員会から教育職員免許状が授与されます。原則再発行はしてもらえませんので、無くさないように大切に保管してください。

8. 専修免許状の取得について

本学の大学院生で下記の要件を満たす者は、専修免許状の授与申請を行うことができます。詳しくは教務チーム窓口まで問い合わせてください。

- (1) 大学院修士課程を修了すること。
- (2) 高等学校または中学校、あるいは両方の一種免許状の取得要件を満たしていること。
- (3) 専修免許状に必要な科目の単位を24単位以上修得すること。履修科目については『学習のてびき』で確認してください。

9. 交換留学等に行く学生への履修上の配慮

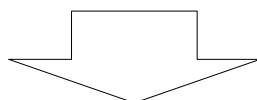
交換留学等の大学が設ける授業や行事によって、長期間学内を空ける学生には履修上の配慮をおこないますので、事前に教務チーム窓口まで届け出てください。その場合、免許状取得までの過程が他の学生と異なってきますので、個別に履修指導を受けてください。ただし、通常の3年次交換留学等ではなく、4年次に交換留学等へ赴く場合は、よほど条件が整わない限り、履修上の配慮は不可能です。教職課程か交換留学等かのいずれかを断念せざるをえない場合もあります。

10. 履修カルテについて

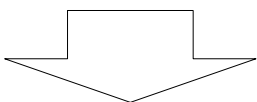
「教職実践演習」の開講とともに文部科学省から義務づけられている事項のひとつが、『履修カルテ』の導入です。この『履修カルテ』は、教員として必要な知識・技能等について教職課程を構成する各授業科目内でどの程度習熟できたかを自己診断することを目的とし、「教職実践演習」の授業の際には、教員として不足している知識・技能等を補うために役立つ重要な資料となります。課程登録をおこなう2年次生以上の教職課程履修者に対して各年度初めにカルテを配付しますので、必ず記入して教務チーム窓口へ提出してください。カルテ配付の具体的な時期や方法は別途案内します。

教員免許状取得までのロードマップ

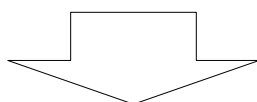
1年次	[教職課程のお試し]期
	<p>2年次の課程登録前に「教職課程の授業とはどういうものか」、あるいは「教職は自分の適性に合っているのか」を確かめるための期間です。取得可能な科目は課程登録後でも履修可能ですが、1年の間にできる限り修得しておくことで2年次以降の負担を減らすことができます。</p> <p>【開講科目の例】教育原論、教育心理学、教育制度論など</p>



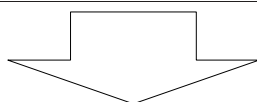
2年次	[課程登録と本格的始動]期
	<p>1年次の教職課程履修により教員になる意思が固まったら、指定された日までに課程登録を済ませてください。登録が可能な科目をできる限り修得してください。</p> <p>【開講科目等の例】生徒・進路指導論、教育相談、介護等体験事前指導 など</p>



3年次	[正念場]期
	<p>3年次にしか履修できず、かつ1つでも単位を落とせば教育実習の履修資格を失う科目も開講されます。また、介護等体験や教育実習受入先探しもこの年次に実施します。やらねばならないことが盛りだくさんで、免許状取得希望者にとっては「正念場」の時期となります。</p> <p>【開講科目等の例】教職論(国際文化は2年次)、教科教育法(国際文化は2年次から)、介護等体験など</p>



4年次	[教育実習と総括]期
	<p>「教育実習」その他と資格取得に必要な単位の未取得分を修得してください。卒業制作や卒業論文、学生によっては就職活動なども必要な時期です。体調管理にも気をつけながら最後まで頑張りましょう。</p> <p>【開講科目の例】事前・事後指導、教育実習、教育実践演習など</p>



教員免許状取得

介護等体験(中学校一種免許状取得希望者のみ)

1. 介護等体験とは

介護等体験とは、学校教育の充実を図るため、障がい者や高齢者に対する介護、介助、これらの人々との交流を通して得られる体験が、教員の資質向上に必要であるとの観点から設けられているものです。教職課程の「授業科目」ではありませんが、中一種免許を取得するためには、介護等体験の終了およびその証明書が必要となります。

2. 介護等体験の内容

介護等体験の内容は次のような構成になっています。

介護等体験の構成

- (1) 事前指導(2年次の夏季休暇期間中に開催される講習)
- (2) 特別支援学校での2日間の実地体験(3年次に実施)
- (3) 老人ホーム等の社会福祉施設での5日間の実地体験(3年次に実施)

※介護等体験により単位が認定されることはありませんが、免許状申請時に証明書が必要です。

※新型コロナウイルス感染状況によっては代替対応となる場合があります。

3. 介護等体験のための条件

「事前指導」を受講しないと介護等体験に行くことができません。

事前指導の案内は、2年次5月の課程登録時に中学校一種免許状取得希望とした学生にのみ連絡します。

4. 介護等体験にかかる手続きについて

介護等体験にかかる必要な手続きについては、都度セイカ・ポータルや郵便、電話等を通じて連絡しますので、2年次の前期から「介護等体験に関する諸連絡」を意識しておいてください。学外施設と大学との間で締め切り厳守の書類が何度も取り交わされますので、対応遅れがないように注意してください。

【参考】介護等体験の実施を所轄する学外機関と体験先の決定について

介護等体験の実施にあたっては、以下の機関が大学と体験先との間で調整をおこないます。

特別支援学校…都道府県教育委員会
社会福祉施設…都道府県社会福祉協議会

申し込みは大学を通じておこないます。教職課程登録者の出身都道府県に基づき大学側で体験先地域を決定した後で、各自の希望に沿って体験先施設が決まりますが、上記の学外機関が体験先の配当調整をおこないますので、希望どおりの施設で体験できるとは限りません。

詳しくは「事前指導」講習のなかで案内します。

5. 介護等体験終了後の注意

介護等体験終了後に受け取る「介護等体験証明書」は免許状申請に必要な重要書類です。

体験終了後はすみやかに証明書本紙を教務チーム窓口に提出してください。

本紙は教務チーム窓口で大切に保管して免許状申請の際に京都府教育委員会へ提出します。学生にはそのコピーを渡しますので、卒業時に免許状を受け取るまで大切に保管しておいてください。

6. その他

介護等体験に関するその他の注意事項は以下のとおりです。

- (1) 介護等体験にあたっては、体験費を添えて申し込まなければなりません。金額は各都道府県によって異なりますが、課程登録料とは別に 7,500 円～10,000 円程度の体験費を負担することになります。資格課程担当より具体的な連絡があれば、指示に従って費用を納付してください。
- (2) 大学に介護等体験を申し込んだ後に教職課程の中止・中断をする場合は、すみやかに教務チーム窓口まで届け出てください(学外機関に辞退手続きをおこないます)。特に交換留学等を予定している方は事前に教務チーム窓口まで相談してください。なお申し込み後の辞退による介護等体験費の払い戻しには応じられませんので、あしからず了承ください。
- (3) 介護等体験へ行くにあたり、体験先施設から「健康診断書」の提出が求められます。3年次のオリエンテーション期に大学が実施する健康診断を必ず受診しておくようにしてください。また、施設によっては「麻疹(はしか)の免疫注射」や「検便」、「検温」等が求められる場合もありますので、事前に提出すべき書類や手続きがないか、資格課程担当から郵送される案内文書をよく読み、不明な点があれば教務チーム窓口にお問い合わせください。なお、大学が実施する健康診断を受けられなかった場合や健康診断書記載内容以外の健康状態の証明条件を提示された場合は、各自で最寄りの保健所などで受診してください。その際の受診費用はすべて自己負担となりますので、各自で医療機関を調べ、安価に受診できる機関を選んでください(思いのほか受診料が高くなるケースもあるため要注意です)。

検査項目にもよりますが、検便(細菌検査)であれば以下の機関が比較的安価に受診できるようですので、参考までに紹介しておきます。

社団法人 京都微生物研究所(略称:BIKEN)…通院受診

〒607-8326 京都市山科区川田御出町 3-4 TEL 075-593-1441 <https://kml.kyoto/>

株式会社 食環境衛生研究所…郵送でのやりとり可

〒379-2107 群馬県前橋市荒口町 561-2 TEL 027-230-3411 <http://www.shokukanken.com/>

受診してから結果が出るまでに、1週間前後を要する 경우가一般的です。介護等体験直前になって要項を確認したところ、検便等の検査が必要であることがわかり、慌てて動き回ることがないように、気をつけてください。

- (4) 本学では、全学生が入学時に「学生教育研究付帯賠償責任保険」(学研賠)「学生教育研究災害傷害保険」(学研災)に加入しています。
- (5) 体験先施設は多忙の中、学生を受け入れてくださいます。体験費を払ったからといって「お客様」ではありません。先方に失礼のないよう真摯な態度で体験に臨んでください。迷惑行為をおこなった場合、翌年から後輩がその施設に受け入れてもらえないといった最悪の事態も想定されますので、自身のふるまいには責任をもってください。
- (6) 卒業と同時に教員免許状を取得できなかった人には、課程履修中止後もしくは卒業後に「介護等体験証明書」原紙を返却しますので、教務チーム窓口まで受け取りに来てください。将来、中一種免許状の取得に再チャレンジする場合に必要な書類となりますので、大切に保管してください(紛失した場合は介護等体験のやり直しとなります)。

教育実習

1. 教育実習とは

「学校での実体験」へ行くための条件になっている授業科目を全て修得した後、最終年次に履修することができる「授業科目」です。また、「学校での実体験」そのものを「教育実習」と称します。

(1) 授業科目「教育実習」の構成

内 容	授 業 科 目 名	単 位 数	履修対象者	
			中一種免	高一種免
・学校での実体験前の講義 ・学校での実体験後の講義	「事前・事後指導」	1	○	○
・学校での実体験	「教育実習Ⅰ」	2	○	○
	「教育実習Ⅱ」	2	○	△

※高等学校教諭一種免許状のみの取得希望者で、教育実習予定校から3週間～4週間の「学校での実体験」と申し渡された場合は、「教育実習Ⅰ」と「教育実習Ⅱ」を履修登録します。

※「教育実習Ⅱ」は4年次当初には登録されていませんが、教育実習が終わった後に、実習期間を確認してから教務チームにて登録をします。

(2) 「教育実習」へ行くための条件

「教育実習」へ行くためには、決められた科目の単位を修得する必要があります。詳しくは、冊子『学習のてびき』を参照してください。

2. 教育実習(学校での実体験)

(1) 教育実習の期間

中一種免と高一種免の両方の取得を希望する学生	3週間～4週間
高一種免のみの取得を希望する学生	2週間～3週間

① 中一種免と高一種免の両方の取得を希望する学生は、教育実習希望校へ最低3週間の教育実習を申し出てください(教育実習期間が3週間以上ない学生は、中一種免を取得することができません)。

② 高一種免のみの取得を希望する学生は、教育実習希望校へ最低2週間の教育実習を申し出てください。

(2) 教育実習校の選択

教育実習校は、原則学生が探します。ただし、資格課程担当は学生がどの学校で教育実習をするのかを把握する必要がありますので、各自で実習前年度の指定された期間に「教育実習希望登録カード」を教務チーム窓口に提出してください。また9月末までに教育実習希望校から「教育実習受入内諾書」をいただき、教務チーム窓口へ提出してください。

ただし、教育実習校(公立学校に限る)によっては実習希望学生個人からの内諾依頼を禁じ、大学から管轄している教育委員会を通じて依頼をする方式を採用している場合がありますので、その際は必ず教務チーム窓口までご相談ください。

(3) 教育実習受入内諾依頼についての注意

- ① 教育実習校にとって教育実習は、学校の先生が行う本来の仕事外であり、大きな負担をおかけすることを心得ておいてください。
- ② 出身校へ教育実習の受入依頼をする学生も、「一成人者」として謙虚かつ丁寧な態度を心がけてください。また、教育実習に向けての明確な意思がないままに教育実習受入依頼をしないようにしてください。
- ③ 教育実習校によっては先着順で受付をする場合がありますので、まずは4月中旬以降早めに連絡を取ってください。
- ④ 教育実習受入内諾を依頼する方法は、電話確認の後、直接教育実習校へ赴くことが原則です。ただ、教育実習校によって依頼する方法はまちまちです。教育実習校の指示に従ってください。
- ⑤ 近年は、教育実習の受入を厳しくしている学校もあります。受入内諾をお願いする際に、教育実習希望校から課せられた課題(レポートや面接など)は、教育実習受入可否のポイントとなります。課せられた場合は、教務チーム窓口へ一度相談に来てください。
- ⑥ 教育実習校が教育実習の受入を内諾された場合は、『教育実習受入内諾書』へ必要事項が記載されます。その際は、必ず「教育委員会への手続き」が[要]なのか[不要]なのかを記載してもらうようにしてください(特に公立学校で「教育実習」を行う学生は忘れないように！)。
- ⑦ 教育実習の受入内諾を得た後に、個人の都合で辞退することは望ましくありません。もし、教育実習前年度までに教職課程を含めた履修に迷いが生じた場合は、遠慮なく教務チーム窓口へ相談してください。
- ⑧ 「美術」の免許だけでなく「工芸」の免許取得も予定している学生のみ、教育実習を「美術もしくは工芸」と教育実習希望校に申し出てください。

(4) 教育実習に関する諸注意

- ① 必ず授業科目「教育実習」に出席してください。授業科目「教育実習」の授業時間内で連絡されることは、重要なことばかりなので注意して聞いてください。また、資格課程担当から連絡することもありますので、セイカ・ポータルに掲示内容、大学メールを確認する習慣を身につけてください。
- ② 教育実習校との連絡は、きちんと行ってください。
- ③ 教育実習を行う年度の「教育実習」授業内にて『教育実習簿』、『教育実習成績報告票』、「返信用レターパック」を渡します。これらは教育実習時に必要になりますので、大切に保管してください。
- ④ 教育実習校の指導教諭へ、『教育実習簿』、『教育実習成績報告票』、「返信用レターパック」を提出してください。『教育実習簿』と『教育実習成績報告票』は、教育実習が終了後、「返信用レターパック」を利用しておよそ2週間以内に本学教務チーム窓口へ返送してもらうよう、教育実習校へお願いしてください。
- ⑤ 教育実習校から事前の打ち合わせなどの連絡を受け取った時は、当日の携行品を確認して、指定された日時に必ず出席してください。
- ⑥ 教育実習中は、体調管理に気をつけてください。
- ⑦ もし、病気などやむを得ない事由で教育実習を欠席する場合は、すぐに教育実習校の指導教諭と教務チーム窓口へ連絡してください。
- ⑧ 教育実習中は、就職活動など他の進路活動との並行は禁止されています。注意してください。
- ⑨ 身だしなみと言葉づかいには細心の注意をはらってください。約束の時間に遅刻するなど厳禁です。

3. その他

教育実習中の保険

教育実習中の事故や災害に備えて、全学生が入学時に加入する保険があります。『学生教育研究付帯賠償責任保険』『学生教育研究災害傷害保険』といいます。入学時にしおりを配布していますので参照してください。

学校保健安全法で定められた病気にかかったら

学校保健安全法で定められた病気感染了ら、完治するまで登校することはできません。風邪を含め、様々な病気にかからないためにも、普段から体調管理には十分注意してください。

研究授業日の設定

教育実習期間中には、教壇に立って生徒に授業をしている様子を実習校の先生方や本学教員が参観する「研究授業日」という機会が設けられます。大学への「研究授業日」連絡方法等については、「教育実習」授業内にて案内します。

教育実習に関する費用の納付

教育実習にあたり、受入校への教育実習に関する費用の納付が求められることがあります。学校や管轄教育委員会によって費用の有無や金額が異なりますが、教育実習に関する費用の納付が必要な場合は、原則大学負担にて実習校に支払います(ただし給食費や、教科書代等実習後手元に残るものなどについては、個人負担となります)。

また、これとは別に、実習生が実習先で必要とする教材のコピー代や消耗品の諸経費などの実費を負担しなければならないこともあります。実費支払いを求められた場合は、領収書をもらって一時的に自己負担をしておいてください。教育実習終了後に教務チーム窓口まで領収書を持参すれば、5,000 円を上限に経費を払い戻します。

教育実習定期の入手方法

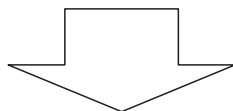
教育実習で長期間、受入校に通う場合には、通学定期とは異なる学割設定の教育実習定期を利用することが可能です。ただし、入手するには電鉄会社等とのやりとりに時間と手間がかかりますので、**教育実習開始日の1ヶ月前まで(期日厳守)**に教務チーム窓口へ教育実習定期の入手希望を申し出てください。大学と電鉄会社との間で所定の手続きをおこないます。

- ・回数券あるいは PiTaPa や ICOCA といった非接触式 IC カードを利用したほうがお得な場合がありますので、各自で調べてみてください。
- ・教育実習開始日の1ヶ月前を過ぎて、入手希望を申し出た場合には、発行手続きにかかる時間的な制約から、希望に添えないことがあります。申込手続きの遅延という自己責任として諦念してください。
- ・交通機関によっては、実習定期発行の制度を採用していない場合もあります。

授業科目「教育実習」終了までの大まかな流れ

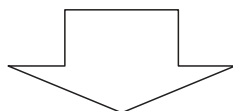
教育実習をする前年度(主に3年次生)の4月から5月

「教育実習予定登録カード」を教務チーム窓口へ提出する。



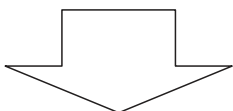
教育実習をする前年度(主に3年次生)の4月～9月

- ①教育実習希望校へ『教育実習内諾願書』と『教育実習受入内諾書』を持参し、受入の内諾を取得する(先着順で締め切る学校もあるのでまずは早めに連絡すること)。
- ②教育実習希望校から受入内諾を取得した学生は、『教育実習受入内諾書』を教務チーム窓口へ提出する。



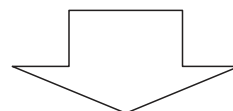
教育実習をする前年度(主に3年次生)の3月

大学(資格課程担当)が教育実習をする前年度(主に3年次生)までの成績で、教育実習へ行くための条件をクリアしているか確認する(単位修得状況によっては個別に連絡することがある)。



教育実習をする当該年度(主に4年次生)の4月

- ①大学が『教育実習受入内諾書』をもとに、教育実習予定校へ『教育実習受入依頼書』を提出する。
- ②教育実習ができる学生は、「事前・事後指導」と「教育実習Ⅰ」を履修登録する。
- ③授業科目「教育実習」(教育実習事前指導を含む)を大学で受講する。

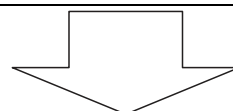


教育実習をする当該年度(主に4年次生)の5月～11月

教育実習校で教育実習をおこなう。

中一種免・高一種免…3週間～4週間

高一種免のみ…2週間～3週間



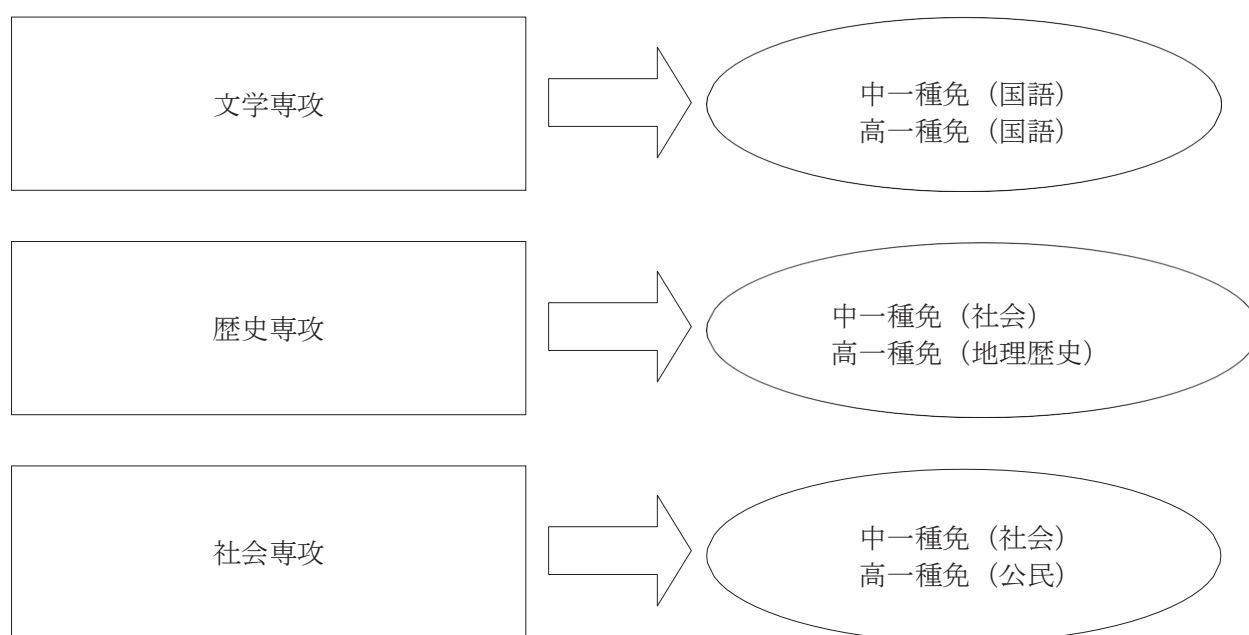
教育実習をする当該年度(主に4年次生)の9月～10月

- ① 授業科目「教育実習(教育実習、事前・事後指導を含む)」と「教職実践実習」を受講する。
- ② 『教育実習簿』を大学(教務チーム窓口)へ提出する。(ただし、教育実習校が「返信用封筒」を利用して、『教育実習成績報告票』と共に『教育実習簿』を大学資格課程担当へ郵送した場合は教務チーム窓口への提出は不要。)

人文学部・国際文化学部への教職課程履修上の注意

人文学部総合人文学科生は取得できる教育職員免許状の学校種や教科種に制約があります。将来的に学校教員になろうとするのであれば、自分自身の得意な学問分野を踏まえ、2年次に「文学」「歴史」「社会」のいずれの専攻に所属するのも視野に入れながら、教職課程の履修計画を立ててください(各専攻のカリキュラムの専門性に応じて取得できる教育職員免許状の学校種や教科種が異なりますので注意してください)。一部科目は1年次から履修可能ですので、効率よく単位修得できるよう履修を開始してください。

■ 各専攻で取得可能な免許種



専攻ごとに取得できる免許種は異なります。指定された以外の免許種の取得を目指すことはできません。教職課程の位置づけは、あくまで学部正課カリキュラムに対するオプションであることを十分認識しておいてください。

国際文化学部人文学科についても、上記と同様の免許取得のカリキュラム設計となります。自分の専攻と異なる免許を希望する場合は卒業時に所得することは難しくなりますので、事前の教務チームに相談してください。またグローバルスタディーズ学科については中学校(社会)、高等学校(公民)の免許取得のカリキュラム設計となります。

博物館学芸員課程

1. 博物館学芸員とは

博物館において資料の収集や保管、展示、調査研究をおこなう専門的職員を博物館学芸員といいます。「博物館」と呼ばれるものにも様々な館種があり、歴史・自然科学・民俗などの博物館や美術館だけでなく、動物園、水族館、植物園も「博物館」のカテゴリーに含まれます。学芸員は、それぞれの博物館で実物・標本などの展示や解説を行い、利用者に対して助言や指導を行います。他に各種事業の企画立案や、レクチャー、現地調査・研究なども仕事に含まれます。

ちなみに海外のミュージアムでは、キュレーター(展覧会の組織)、アーキビスト(資料の収集・管理)、エデュケーター(資料を用いた教育普及活動)など、学芸員でも職務の類型に応じて職名が異なり、それぞれがより高度な専門性と職権を有しています。

2. 博物館学芸員資格の取得条件

博物館学芸員となる資格を得るためには『博物館法』第5条第1項および本学が定めた規程に基づき、以下の条件を満たしてください。

【重要】 資格を取得するための条件

- (1) 博物館学芸員課程の課程登録を済ませていること。
- (2) 所属学部学科を卒業すること。
- (3) 博物館学芸員課程で定めた科目の単位を修得していること。

3. 博物館学芸員課程を履修できる学科と対象入学年度

博物館学芸員課程を履修できる学科と対象入学年度は次のとおりです。

人文学部・・・総合人文学科

国際文化学部・・・人文学科、グローバルスタディーズ学科

芸術学部・・・造形学科、素材表現学科、メディア造形学科

デザイン学部・・・イラスト学科、ビジュアルデザイン学科、プロダクトデザイン学科

マンガ学部・・・マンガ学科、アニメーション学科

ポピュラーカルチャー学部・・・ポピュラーカルチャー学科

メディア表現学部・・・メディア表現学科

※各学部学科の編入生は2年次編入生のみを対象とします。

4. 博物館学芸員課程科目

博物館学芸員課程は所属する学部学科のカリキュラムとはまったく別の教育課程と考えてください。『学習のてびき』にある開講科目のなかから、履修方法に従って必要単位数を修得しなければなりません。

5. 注意事項

- (1) 開講科目のうち博物館学芸員課程だけに設けられている資格課程専門科目は、卒業要件単位には算入されず、履修登録上限単位にも含まれません。
- (2) 3年次編入生は博物館学芸員課程のカリキュラムの設定上、課程履修の対象とはなりません。2年次編入のみ課程履修の対象者となりますので、入学年度の5月中に課程登録を済ませたうえで、必要な科目を履修してください。個別の履修相談に応じます。

6. 博物館学芸員課程の履修の中止もしくは一時中断

交換留学等や休学、長期入院等の理由により、博物館学芸員課程の履修を一時中断せざるをえない場合には、教務チーム窓口まで相談してください。一時中断する場合には「履修継続届」(教務チーム窓口に常備)を必ず提出してください。また、資格の取得に興味がなくなり自身の判断で履修を中止する方も、「履修中止届」(教務チーム窓口にあります)にて必ず自己申告してください。

7. 交換留学等に行く学生への履修上の配慮

交換留学等の大学が設ける行事や授業によって、長期間学内を空ける学生には履修上の配慮をおこないますので、事前に教務チーム窓口まで届け出てください。その場合、資格取得までの過程が他の学生と異なってきますので、個別に履修指導を受けてください。なお、カリキュラムの性質上、4年次の交換留学等に対する配慮はできません。

8. 博物館学芸員資格取得証明書の授与

博物館学芸員課程において定める科目を履修し、その単位を修得した者には、卒業式当日に本学から「博物館学芸員資格取得証明書」を授与します。

博物館実習

1. 博物館実習とは

博物館業務の基本は、資料を収集・保管・展示し、そのための調査研究、整理、分類、列品解説等を行うことです。授業科目の「博物館実習」では、博物館活動の基礎知識ならびに初歩的技術を習得するために、博物館施設において本学担当教員および博物館学芸員から実地で指導を受けて、博物館実務の理論と実際に学びます。

2. 博物館実習の内容

「博物館実習」は次のような構成になっています。

博物館実習の構成

(1) 学内実習

学内において、担当教員から収集・保管・資料整理等の指導を受ける。

(2) 見学実習

担当教員の引率・指導のもとで、または各自で博物館施設における展示および文化財などの見学(年間を通じて10館程度)をおこなう。実習終了後、『博物館実習ノート』に感想などを記入し、担当教員に提出する。

(3) 館務実習

博物館・美術館などにおいて、現職の学芸員から実務指導を受ける。実習は、原則として、夏休み期間中に1週間程度とする(実習先の決定については後述する)。実習終了後、『博物館実習ノート』を担当教員に提出する。

※館務実習だけを指して「博物館実習」と称する場合があります。

3. 博物館実習の予備登録(3年次)

博物館実習(館務実習)の予備登録として、3年次後期の指定期日(例年1~2月頃)までに「博物館実習予定カード」を提出してください。予備登録説明会の日程は、3年次後期にセイカ・ポータルを通じて掲示・告知します。「博物館実習予定カード」を提出していない場合は、資格課程担当において実習希望館や実習依頼活動状況の把握ができないため、4年次の「博物館実習」の科目登録を認めません。

3年次後期に交換留学、休学等を予定している学生は、3年次前期中の早い時期に実習希望館を検討したうえで、担当教員および教務チーム窓口にご相談してください。

4. 実習先の決定(3年次夏季から4年次4月)

(1) 実習館の選択

各自の学部・学科・専攻や興味・関心を持つ分野等により、将来的に館務実習でお世話になりたい館を普段から検討しておくとい良いでしょう。公営・民営の博物館・美術館・資料館に限らず、動物園(ケガが心配ですので慎重に選択してください)などの自然科学系列館でも可能です。

担当教員や資格課程担当者に尋ねたり、さまざまな情報やインターネットを利用して、広い範囲から探してみてください。また、教務チーム窓口や情報館には『全国博物館総覧』という本が所蔵されていますので、実習先選定の参考にすることも可能です。

「博物館実習予定カード」に、第1希望・第2希望の実習館を記入し、3年次後期の指定期日までに教務チーム窓口へ提出してください(自分自身で実習館に連絡を取り、博物館実習申込方法や時期を「同カード」に記入してください)。「博物館実習予定カード」の提出がない場合は、館務実習をおこなわないものとみなします。

(2) 実習館への依頼 ※詳細は3年次後期の予備登録説明会にて案内します。

- ①博物館施設の受入人数には限りがあります。近年、博物館実習生の人数が増加しており、実習館での受入が厳しい状況にあります。館務実習生の受入を行わない施設、受入できない博物館などもあります。
- ②出身地などの博物館に熱意を持ってお願いしたほうが良い結果が得られる場合もありますので、各自で休暇中などを利用して、博物館実習登録時(3年次1月)までに、実習館を探す努力をしてください。ただ、自宅に近いからといった安易な理由だけでなく、館務に興味の持てる実習希望館を探してみてください。遠方の博物館での実習が確定した場合、宿泊代金も発生して実習にかかる費用の自己負担が増えますが、やりがいを持って臨むことにより実のある経験が得られることでしょう。
- ③まずは各自が希望する実習館のWebサイトに実習についての案内がないか確認をしてください。案内がない場合は申し込み方法を電話で問い合わせてください。
実習館によっては、「レポート」などの提出を求められることもあります。事前にインターネットなどを利用して、実習希望館に関する情報を調べるのも良いでしょう。
- ④個人で実習を申込できる館と、大学を通しての申込が必要な館の2種類があります。「大学を通して申込が必要です」と館から言われた館については、3年次後期の指定期日までに教務チーム窓口へ提出する「博物館実習予定カード」に、その旨を明確に記入してください。
- ⑤学生個人での申し込みの場合「学芸員実習受入内諾書」を館に記載していただき、教務チーム窓口へ提出してください。

【電話での依頼方法の例】

「京都精華大学〇〇学部3年生の〇〇と申します。博物館実習ご担当の方をお願いします。」

担当者につながったら、「京都精華大学〇〇学部3年生の〇〇と申します。平成〇〇年度の博物館実習の申込方法と申込時期をお尋ねしたいのですが…」と伝え、申込方法や申込時期を聞いてください。その時、学生個人の申込で充分なのか、大学を通して申込しなければいけないかを聞き取ってください。「現在のところ令和〇〇年度のことは決まっていません」と館から回答されることもよくあります。その時は「では、次はいつ頃にお電話させていただいたらよろしいでしょうか?」と館に聞いてください。誠実な気持ちと丁寧な言葉遣いをすれば、遠慮は不要です。

【実習館選択の質問・相談について】

博物館実習担当教員の山名先生(研究室:流溪館 224号室)や教務チーム窓口へ問い合わせてください。他に、各学科やコース、ゼミの先生などに相談してみるのも良いかもしれません。思わぬ形で自分と相性の合う実習館が見つかるかもしれません。

5. 博物館実習登録(4年次4月)

博物館実習(館務実習)を実施するためには、博物館実習登録を行わなければなりません。「博物館実習」の初回授業において、3年次の予備登録内容に基づいて山名先生が実習館の確定調整をおこないますので、必ず初回授業に出席してください。

6. 大学から実習館への正式な実習受入依頼

大学は、「博物館実習予定カード」等の提出書類をもとに、各実習予定館へ正式な学芸員実習受入依頼を行います。各実習館より正式な「受入承諾書」が到着次第、博物館ごとの実習日時や注意点などを各学生に通知します。

7. 博物館実習(館務実習)(4年次)

館務実習にあたっては、あらかじめ下調べをおこない、また、必要な事前連絡などを実習館と確実に済ませておいてください(大学からが学生へ連絡する場合と、実習館から学生へ連絡場合があります)。4年次初めの

オリエンテーションもしくは授業科目「博物館実習」の授業時間内に次の書類を配付しますので、紛失しないように大切に管理してください。

『博物館実習ノート』

このノートは実習期間中に必ず持参して、記入した内容を実習館の担当指導者に見てもらい、コメントをいただくようにしてください。実習終了後、実習館より博物館実習ノートを手渡して受け取らずに郵送にて受け取る場合は、自分で返信用の封筒(レターパックプラス 520円を推奨)を用意して実習館に依頼してください。

8. 館務実習に関する注意事項

- (1) 実習には、『博物館実習ノート』、筆記用具のほか、印鑑を毎日持参してください。その他の必携持参物については、各実習館への挨拶も兼ねて事前に問い合わせ確認してください。
- (2) 各実習館では実務が忙しい中、厚意で実習生の受入をいただいていることに留意してください。館務実習期間中の欠席や遅刻が厳禁であることは勿論のこと、服装・礼儀・挨拶にも気をつけてください。一成人としてマナーを守り、謙虚な気持ちで実習に臨みましょう。実習終了後にはお礼の手紙かハガキを出しましょう。
- (3) 担当学芸員の方の指示や注意事項を傾聴して、実直に従うようにしてください。近年、動物園での実習を希望する学生が増えていますが、動物園は実習にあたってもっとも危険をとまなう館種ですので特に注意が必要です。

9. 館務実習中の保険

実習中の事故や災害に備えて、大学では全学生が入学時に『学生教育研究付帯賠償責任保険』と『学生教育研究災害障害保険』という保険に加入しています。入学時にしおりを配布していますので参照してください。

図書館司書課程

1. 図書館司書とは

図書館において、本や雑誌、映像・録音資料、データベースなどに関する知識や情報検索の技能を活かして、利用者にサービスを提供する専門的職員を図書館司書といいます。資料の貸出・返却や書架の整理といったフロアサービス、受入資料の選定・発注や蔵書データの作成・管理、館内イベントの企画立案など、図書館の運営には多種多様な業務が求められます。

2. 図書館司書資格の取得条件

図書館司書となる資格を得るためには『図書館法』第5条第1項および本学が定めた規程に基づき、以下の条件を満たしてください。

【重要】 資格を取得するための条件

- (1) 図書館司書課程の課程登録を済ませていること。
- (2) 所属学部学科を卒業すること。
- (3) 図書館司書課程で定めた科目の単位を修得していること。

3. 図書館司書課程を履修できる学科

図書館司書課程を履修できる学科は次のとおりです。

人文学部(国際文化学部)・・・総合人文学科(人文学科、グローバルスタディーズ学科)

芸術学部・・・造形学科、素材表現学科、メディア造形学科

デザイン学部・・・イラスト学科、ビジュアルデザイン学科、プロダクトデザイン学科

マンガ学部・・・マンガ学科、アニメーション学科

ポピュラーカルチャー学部・・・ポピュラーカルチャー学科

メディア表現学部・・・メディア表現学科

※各学部学科の編入生は2年次編入生のみを対象とします。

4. 図書館司書課程科目 図書館司書課程は所属する学部学科のカリキュラムとはまったく別の教育課程と考えてください。『学習のてびき』にある履修方法に従って所定の単位を修得しなければなりません。

5. 注意事項

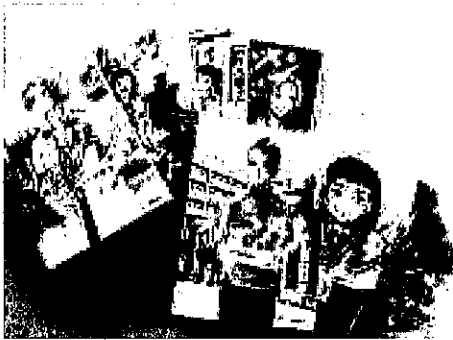
- (1) 科目はすべて資格課程専門科目ですので、卒業要件単位には算入されず、履修上限単位にも含まれません。
- (2) 3年次編入生は図書館司書課程のカリキュラムの設定上、課程履修の対象とはなりません。2年次編入のみ課程履修の対象者となりますので、入学年度の4月中に課程登録を済ませたうえで、必要な科目を履修してください。個別の履修相談に応じます。
- (3) なんらかの事情で図書館司書課程を履修できない学生のうち、どうしても図書館司書資格の取得を希望する者は、卒業後に本学の科目等履修制度を活用するか、他大学で開講している図書館司書講習を受講してください。
- (4) 図書館司書課程は必修科目の数が多く、かつ同一年次履修が必要な科目もありますので、履修可能年次になったら早めの履修を心がけ、取りこぼしが発生しないようにしてください。

6. 図書館司書課程の履修の中止もしくは一時中断

交換留学等や休学、長期入院等の理由により、図書館司書課程の履修を一時中断せざるをえない場合には、教務チーム窓口まで相談してください。一時中断する場合には「履修継続届」(教務チーム窓口にあります)を必ず提出してください。また、資格の取得に興味がなくなり自身の判断で履修を中止する方も、「履修中止届」(教務チーム窓口にあります)にて必ず自己申告してください。

7. 図書館司書資格取得証明書の授与

図書館司書課程において定める科目を履修し、その単位を修得した者には、卒業式当日に本学から「図書館司書資格取得証明書」を授与します。

ALUMNI
19

マンガ家

発達障害や虐待など子どもの心の問題を寄り添うようにやさしく描き、大反響を呼んでいる「リエゾン—子どものこころ診療所—」。連載にあたり、作者のヨンチャンさんは児童精神科を取材し、学童保育所でアルバイトをして、子どもたちのリアルな姿に接した。「ありのままに子どもを描き、周りの大人がどう対応していくかを描くストーリーです。いまの子どもたちは大人っぽいくともあれば、予測不能なこともする。リアルに表現し、読者に共感してほしい」。原稿に向き合うと自分自身のつらい経験がよぎることもある。でも逃げずに描き切る。表現することで受けて立つ。「作中のキャラクターは僕たちの周りにいるかもしれないし、自分のことかもしれない。誰にでもある人間の凸凹を分かち合い、補い合える。そんな可能性を信じたいです」。



ヨンチャン

2017年ストーリーマンガコース卒業。韓国出身。日本のマンガにあこがれて京都精華大学に入学後、在学中はアメリカ留学も。2017年の卒業展後、「第4回THE GATE」で「ヤフ鳥」が大賞を受賞しデビュー。初連載の「ベストエイト」を経て、2020年から「リエゾン」の連載をスタート。

ALUMNI
20

高等学校美術科教諭

「生まれ育った徳島で、唯一美術科がある高校で、自分が学んだ日本画を教えています。恵まれた環境ですね」。そう秋山さんは語る。現在は美術科3年生の担任を受け持ち、日本画、素描を指導する。教員という仕事に行き着いたのは、在学中に、将来は社会的に自立しながらも、もっと美術を続けたい、という気持ちが生まれたことだった。夢をかねたいま、学んできた技術や知識のすべてを生徒たちに伝える日々を送っている。一番の楽しみは、その成長ぶり。「1年生の時には荒かったデッサンが、たった1年で見違えるようになるんです。力がついたことを実感できる指導をつづけて、生徒たちの美術への想いを育ててあげたいですね」。

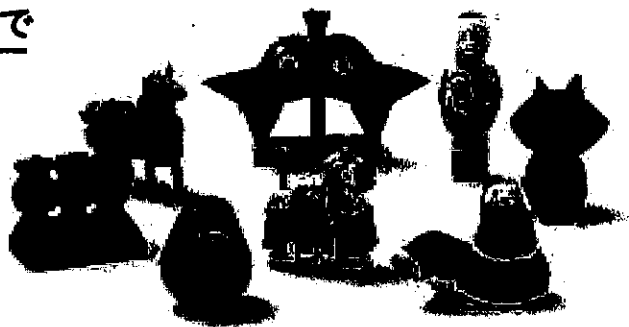


秋山真由子

芸術学部日本画専攻2019年卒業。同年4月より徳島県立名西高等学校の美術科にて教鞭を執る。教職の傍ら、徳島市内の飲食店での個展を開催するなど、精力的に活動を行っている。



自分が手がける商品で 日本の工芸を 元気にしたい



「伝統工芸は進化しなければいずれ廃れる」。羽田さんが在学中に参加した、京都の伝統産業実習で出会った職人の言葉。その時はピンとこなかったが、寂しさを含んだ一言は心にずっと残っていた。

4年間みっちり芸術を学び、就職活動で出会ったのは、奈良を拠点に、現代の暮らしにもフィットする工芸品を販売する中川政七商店。「日本の工芸を元気にする！」というビジョンに強く惹かれた。この会社は、職人さんの言葉を体現している。そう確信し、共感を深めたのが入社の日だった。現在、羽田さんが手がけているのは、日本の工芸をベースとした生活雑貨の企画から開発、デザインまですべて。手ぬぐいなどの平面的なものから、季節のお飾りなど立体的なプロダクトまで、工芸の良さをしっかり残しつつ、モダンな要素を加えてアップデートされたアイテムの数々は、女性を中心に人気を博している。その手応えを感じられたのは、郷土玩具をモチーフにしたガチャガチャを発売した時のこと。日本各地に伝わる個性豊かな郷土玩具は、後継者不足により衰退の一途を辿っている。

このままではもったいない、その存在を知ってほしいという気持ちから生まれた商品たちは、たくさんの反響を得た。「職人さんからは郷土玩具を広めてくれてありがとう、と感謝の言葉をいただいたり、お客さまからは地元こんなかわいいものがあったなんて!と驚かされたらして、共感していただけたことが嬉しかったです」。そんな風に自分の作りたい商品について思いを伝え、形にする力を培ったのは、在学中の作品合評会だった。「厳しい意見をもらうことも多く、緊張の連続でしたが、随分メンタルが強えられました(笑)」。



羽田えりな

芸術学部日本画専攻2009年卒業。大学卒業後、1716年に創業した老舗「株式会社中川政七商店」に入社。商品部に所属し、プロダクトの企画開発はもちろん、職人との交渉や加工先の選定など、完成までのすべてを手がける。

ALUMNI
21株式会社
中川政七商店

商品開発・デザイナー

京都精華大学

KYOTO SEIKA UNIVERSITY

資料8

学習のてびき

2023年度版

(2021年度以降入学生向け)

2018年度、2019年度のゲスト講師

2018年度

- 6/16 榎本 「美術科教育法Ⅰ」
- 12/8 乾 「美術科教育法Ⅰ・Ⅱ合同授業」
- 12/15 服部 「教職実践演習」
- 9/22 杉原 「介護等体験事前指導（福祉施設）」
- 9/22 重光 「介護等体験事前指導（支援学校）」

2019年度

- 7/6 足立 「美術科教育法Ⅰ」
- 9/20 杉原 「介護等体験事前指導（福祉施設）」
- 9/20 重光 「介護等体験事前指導（支援学校）」



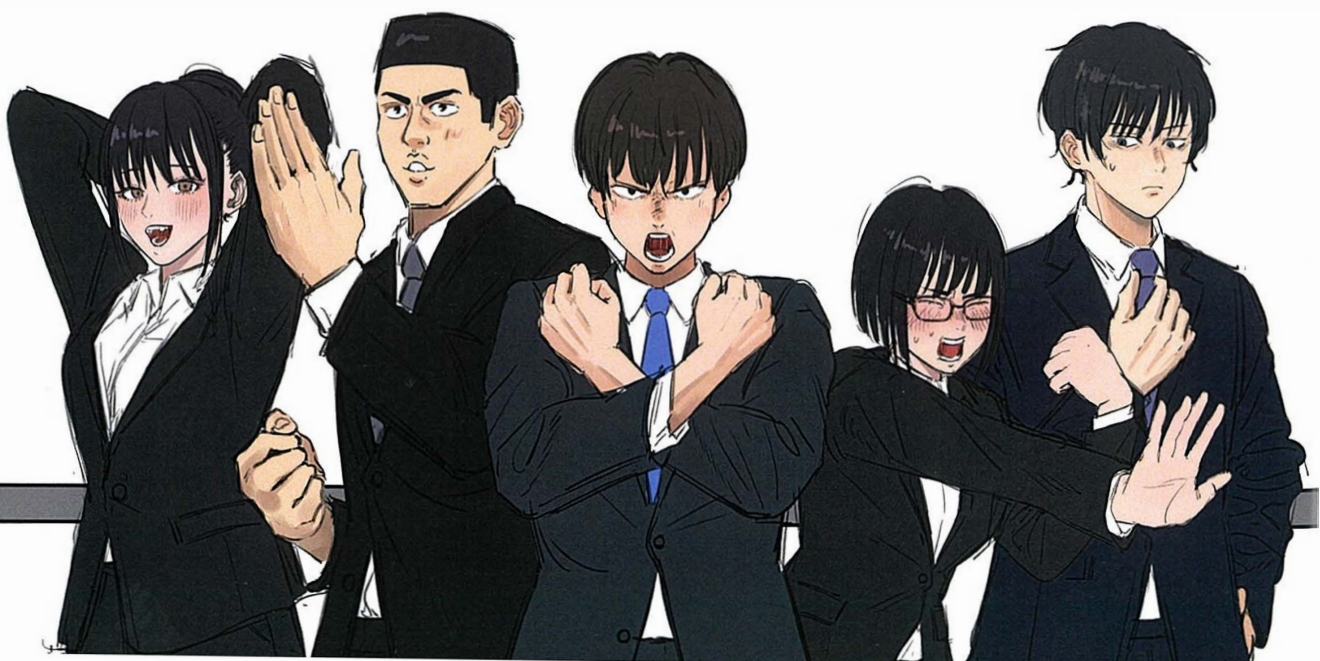
TPE

Teaching
Practice
Exercises



目次

はじめに	3
指導計画例	4
(1) 中学校美術科「レタリングからへ」	4
(2) 高等学校美術科「街の店のロゴデザイン」	6
(3) 高等学校美術科「私が素材のアニメーション制作」	8
教育実習から「こんなことを体験して学んだ!」	12
(1) 文化祭体育祭を経験して	12
(2) 担当授業以外での経験と対処の仕方	14
実習中はこんな1日	18
特色のある学校紹介	21
(1) 母校以外の実習体験	21
(2) 少人数制の高校	22
(3) 大規模中高一貫校	23
(4) 「総合デザイン科」のある工業高校	24
教員採用試験の準備等	26
教職実践演習で身に付けてほしいこと	30
編集後記	33



本誌担当分担
〈全体構成担当〉

編集・構成 吉野果樹
表紙デザイン 大西末聖
ロゴデザイン 大井勇星
目次イラスト 柴垣陸真

〈各項目担当〉

指導計画例 大井勇星 吉野果樹 午菴くるみ
教育実習から 長谷川彌 時津天表 西出莉子
特色ある学校 柴垣陸真 吉田優人 右近つか沙 大西末聖
教員採用試験 出口鈴菜 上野目浩一
学校からの期待 上野目浩一
「はじめに」など 杉本昌裕

発行日 2023年1月19日

編集者 2022年度「教職実践演習」受講学生
杉本昌裕 上野目浩一

発行所 京都精華大学 教職課程

印刷 株式会社グラフィック

スマートフォンでの利用について

学生ユーザーは[スマートフォン表示のサイト](#)を利用可能です。
 その他のユーザー（保護者・教員・職員）は[PC版サイト](#)からアクセスしてください。

- [学習のてびき2023【2021年度以降入学生用】](#)
- [学習のてびき2023【2017～2020年度入学生用】](#)

システムの停止時間帯に関するお知らせ

毎日の下記時間帯はシステムの日次バックアップを行いますので、その間はシステムをご利用いただけません。ご注意ください。

停止時間帯：毎日 0:00～6:00

[キャンパスマップ](#)

[シラバス照会](#)

実務経験を有する教員による授業科目

本学では、実務経験を有する教員がその経験を活かし担当する科目、学外から多様な企業等で活躍する方々を講師に迎え実施する科目、企業とのコラボレーション授業、インターンシップなど、実践的教育から構成される科目を配置しています。

該当する科目の詳細は、シラバスのキーワード検索で【実務経験／実践的教育】と入力し検索してご確認ください。

[WebMail（学生用2020年度以前）](#)

[WebMail（学生用2021年度以降）](#)

メール定時配信は次の時間に実施されます。
 07:30/08:35/08:50/10:35/12:30/14:35/16:15/17:55/20:00

休講などの最新情報をすぐに確認したい場合は、
 直接セイカ・ポータルにログインをして、掲示を確認してください。

情報管理チームからのお知らせ

- 学内無線ネットワーク接続について
 - ・ [Windowsの接続について](#)
 - ・ [Macの接続について](#)
- Adobeソフトウェアについて
 - ・ Adobe Stock は使用できません。
 - ・ [ソフトウェアを起動すると体験版になる。または有料プランの購入画面が表示される場合の対応方法](#)

[明窓館1階3階教室予約](#)

[【保護者】パスワードを忘れた方はこちら](#)
[※学生は利用できません。](#)

教職課程 履修カルテ <理解・習熟度 自己評価シート> 2年次生用(メディア表現学部メディア表現学科様式)

学籍番号		氏名	
------	--	----	--

この自己評価シートは、4年次の教育実習後に履修する「教職実践演習」の授業の際に、教員として不足している知識・技能等を補うために役立つ重要な資料となります。必ず記入して教務チームへ提出してください。

(1) 教員に必要な資質能力に関する自己評価

学校教育を管轄する文部科学省によって定められた教職課程において修得すべき「教員として必要な知識・技能等」について、授業内でどの程度理解し習熟できたかを自分自身で評価します。太線枠内の該当箇所に○印を記入してください。

授業科目名	履修登録	単位修得	チェック項目	測定指標	理解・習熟度に対する自己評価
教育原論	未・済	未・済	教育の理念・教育史・思想の理解	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得できましたか？	はい・どちらかといえばはい・どちらかといえいいえ・いいえ
教育心理学	未・済	未・済	心理・発達論的な子ども理解	子ども理解のために必要な心理・発達論的基礎知識を習得できましたか？	はい・どちらかといえばはい・どちらかといえいいえ・いいえ
教育制度論	未・済	未・済	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得できましたか？	はい・どちらかといえばはい・どちらかといえいいえ・いいえ

(2) 取得希望免許状の教科に関する専門的な知識や技能についての自己評価

取得を希望している免許状の教科について、将来教壇に立って生徒たちに教育・指導する自分の姿を想像しながら、現時点での自身の専門的知識・技能等を評価します。入学直前のレベルと大学入学1年後のレベルとを相対評価して、授業を受けて自分がどの程度成長したかを振り返り、今後の強化課題を確認します。取得希望する免許状教科に関する各領域について、太線枠内の該当箇所に○印もしくは必要事項を記入してください。

教科	抽出側面	入学前の知識習得レベル(自己評価)	この1年間での知識習得度向上(自己評価)	自分で感じる不得意な事項(自由記述)
情報	情報社会・情報倫理	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	コンピュータ・情報処理	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	情報システム	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	情報通信ネットワーク	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	マルチメディア表現・マルチメディア技術	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	情報と職業	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	

教職課程 履修カルテ <理解・習熟度 自己評価シート> 3年次生用(メディア表現学部メディア表現学科様式)

学籍番号		氏名	
------	--	----	--

この自己評価シートは、4年次の教育実習後に履修する「教職実践演習」の授業の際に、教員として不足している知識・技能等を補うために役立つ重要な資料となります。必ず記入して教務チームへ提出してください。

(1)教員に必要な資質能力に関する自己評価

学校教育を管轄する文部科学省によって定められた教職課程において修得すべき「教員として必要な知識・技能等」について、授業内でどの程度理解し習熟できたかを自分自身で評価します。
太線枠内の該当箇所に○印を記入してください。

授業科目名	単位修得	チェック項目	測定指標	理解・習熟度に対する自己評価
教職論	未・済	教職の意義や教員の役割・職務内容の理解	教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育原論	未・済	教育の理念・教育史・思想の理解	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育心理学	未・済	心理・発達論的な子ども理解	子ども理解のために必要な心理・発達論の基礎知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育制度論	未・済	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育課程論	未・済	教育課程の構成に関する基礎理論・知識	教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
特別支援教育論	未・済	特別の支援を必要とする生徒に対する理解	特別の支援を必要とする生徒に対する理解ができたとおもいますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
特別活動論	未・済	特別活動に関する基礎理論・知識	特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育方法論	未・済	情報機器・教材の活用に関する基礎理論・知識	情報教育機器及び教材の活用に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		学習指導法に関する基礎理論・知識	学習指導の方法・技術に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
生徒・進路指導論	未・済	子どもの状況に応じた対応	いじめ・不登校・特別支援教育等、個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		生徒・進路の指導法	生徒・進路の指導法に対する知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
総合的な学習の時間の指導法	未・済	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法について理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育相談	未・済	保護者・地域・他者との連携協力	保護者や地域、他者と連携・協力して課題に取り組むことの重要性を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		発達段階に応じたコミュニケーション	子どもたちの発達段階に応じたコミュニケーションの重要性を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		教育相談・進路指導に関する基礎理論・知識	教育相談・進路指導に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ

教職課程 履修カルテ <理解・習熟度 自己評価シート> 4年生用(メディア表現学部メディア表現学科様式)

学籍番号		氏名	
------	--	----	--

この自己評価シートは、4年次の教育実習後に履修する「教職実践演習」の授業の際に、教員として不足している知識・技能等を補うために役立つ重要な資料となります。必ず記入して教務チームへ提出してください。

(1)教員に必要な資質能力に関する自己評価

学校教育を管轄する文部科学省によって定められた教職課程において修得すべき「教員として必要な知識・技能等」について、授業内での程度理解し習熟できたかを自分自身で評価します。太線枠内の該当箇所に入印を記入してください。

授業科目名	単位修得	チェック項目	測定指標	理解・習熟度に対する自己評価
教科教育法	未・済	取得希望免許教科に関する基礎理論・知識	教科教育にかかる専門分野の基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
	未・済	教科書・学習指導要領の内容理解	教科書や教科の学習指導要領の内容を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教職論	未・済	教職の意義や教員の役割・職務内容の理解	教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育原論	未・済	教育の理念・教育史・思想の理解	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育心理学	未・済	心理・発達論的な子ども理解	子ども理解のために必要な心理・発達論の基礎知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育制度論	未・済	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育課程論	未・済	教育課程の構成に関する基礎理論・知識	教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
特別支援教育論	未・済	特別の支援を必要とする生徒に対する理解	特別の支援を必要とする生徒に対する理解ができたとおもいますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
特別活動論	未・済	特別活動に関する基礎理論・知識	特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育方法論	未・済	情報機器・教材の活用に関する基礎理論・知識	情報教育機器及び教材の活用に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		学習指導法に関する基礎理論・知識	学習指導の方法・技術に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
生徒・進路指導論	未・済	子どもの状況に応じた対応	いじめ・不登校・特別支援教育等、個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		生徒・進路の指導法	生徒・進路の指導法に対する知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
総合的な学習の時間の指導法	未・済	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法について理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育相談	未・済	保護者・地域・他者との連携協力	保護者や地域、他者と連携・協力して課題に取り組むことの重要性を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		発達段階に応じたコミュニケーション	子どもたちの発達段階に応じたコミュニケーションの重要性を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		教育相談・進路指導に関する基礎理論・知識	教育相談・進路指導に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ

教職課程 履修カルテ <理解・習熟度 自己評価シート> 2年次生用(国際文化学部グローバルスタディーズ学科各教科共通様式)

学籍番号		氏名	
取得希望免許教科(該当するものすべてに○印を記入)			
中一種免(社会) ・ 高一種免(公民)			

この自己評価シートは、4年次の教育実習後に履修する「教職実践演習」の授業の際に、教員として不足している知識・技能等を補うために役立つ重要な資料となります。必ず記入して教務チームへ提出してください。

(1) 教員に必要な資質能力に関する自己評価

学校教育を管轄する文部科学省によって定められた教職課程において修得すべき「教員として必要な知識・技能等」について、授業内でどの程度理解し習熟できたかを自分自身で評価します。太線枠内の該当箇所に○印を記入してください。

授業科目名	履修登録	単位修得	チェック項目	測定指標	理解・習熟度に対する自己評価
教育原論	未・済	未・済	教育の理念・教育史・思想の理解	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育心理学	未・済	未・済	心理・発達論的な子ども理解	子ども理解のために必要な心理・発達論的基礎知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育制度論	未・済	未・済	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ

(2) 取得希望免許状の教科に関する専門的な知識や技能についての自己評価

取得を希望している免許状の教科について、将来教壇に立って生徒たちに教育・指導する自分の姿を想像しながら、現時点での自身の専門的知識・技能等を評価します。入学直前のレベルと大学入学1年後のレベルとを相対評価して、授業を受けて自分がどの程度成長したかを振り返り、今後の強化課題を確認します。取得希望する免許状教科に関する各領域について、太線枠内の該当箇所に○印もしくは必要事項を記入してください。

教科	抽出側面	入学前の知識習得レベル(自己評価)	この1年間での知識習得度向上(自己評価)	自分で感じる不得意な事項(自由記述)
社会 公民 地歴 (共通)	日本史(社会科のみ)	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
	外国史(社会免許のみ)	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
	地理学・地誌(社会科のみ)	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
	法律学	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
	政治学	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
	社会学	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
	経済学	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
	哲学	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
	倫理学	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
	宗教学	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	

教職課程 履修カルテ <理解・習熟度 自己評価シート> 3年次生用(国際文化学部グローバルスタディーズ学科各教科共通様式)

学籍番号		氏名	
取得希望免許教科(該当するものすべてに○印を記入)			
中一種免(社会) ・ 高一種免(公民)			

この自己評価シートは、4年次の教育実習後に履修する「教職実践演習」の授業の際に、教員として不足している知識・技能等を補うために役立つ重要な資料となります。必ず記入して教務チームへ提出してください。

(1)教員に必要な資質能力に関する自己評価

学校教育を管轄する文部科学省によって定められた教職課程において修得すべき「教員として必要な知識・技能等」について、授業内でどの程度理解し習熟できたかを自分自身で評価します。
太線枠内の該当箇所に○印を記入してください。

授業科目名	単位修得	チェック項目	測定指標	理解・習熟度に対する自己評価
教職論	未・済	教職の意義や教員の役割・職務内容の理解	教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育原論	未・済	教育の理念・教育史・思想の理解	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育心理学	未・済	心理・発達論的な子ども理解	子ども理解のために必要な心理・発達論の基礎知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育制度論	未・済	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育課程論	未・済	教育課程の構成に関する基礎理論・知識	教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
特別支援教育論	未・済	特別の支援を必要とする生徒に対する理解	特別の支援を必要とする生徒に対する理解ができたとおもいますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
道徳教育論(中免のみ)	未・済	道徳教育に関する基礎理論・知識	道徳教育の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
特別活動論	未・済	特別活動に関する基礎理論・知識	特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育方法論	未・済	情報機器・教材の活用に関する基礎理論・知識	情報教育機器及び教材の活用に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		学習指導法に関する基礎理論・知識	学習指導の方法・技術に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
生徒・進路指導論	未・済	子どもの状況に応じた対応	いじめ・不登校・特別支援教育等、個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		生徒・進路の指導法	生徒・進路の指導法に対する知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
総合的な学習の時間の指導法	未・済	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法について理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育相談	未・済	保護者・地域・他者との連携協力	保護者や地域、他者と連携・協力して課題に取り組むことの重要性を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		発達段階に応じたコミュニケーション	子どもたちの発達段階に応じたコミュニケーションの重要性を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		教育相談・進路指導に関する基礎理論・知識	教育相談・進路指導に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ

(2) 取得希望免許状の教科に関する専門的な知識や技能についての自己評価

取得を希望している免許状の教科について、将来教壇に立って生徒たちに教育・指導する自分の姿を想像しながら、現時点での自身の専門的知識・技能等を評価します。

1年次の習熟レベルと2年次の習熟レベルとを相対評価して、授業を受けて自分がどの程度成長したかを振り返り、今後の強化課題を確認します。

取得希望する免許状教科に関する各領域について、太線枠内の該当箇所に○印もしくは必要事項を記入してください。

教科	抽出側面	1年次の知識習得レベル(自己評価)	2年次の1年間の知識習得度向上(自己評価)	自分で感じる不得意な事項(自由記述)
社会 公民 地歴 (共通)	日本史(社会科のみ)	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	外国史(社会免許のみ)	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	地理学・地誌(社会科のみ)	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	法律学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	政治学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	社会学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	経済学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	哲学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	倫理学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	宗教学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	

教職課程 履修カルテ <理解・習熟度 自己評価シート> 4年次生用(国際文化学部グローバルスタディーズ学科各教科共通様式)

学籍番号		氏名	
取得希望免許教科(該当するものすべてに○印を記入)			
中一種免(社会) ・ 高一種免(公民)			

この自己評価シートは、4年次の教育実習後に履修する「教職実践演習」の授業の際に、教員として不足している知識・技能等を補うために役立つ重要な資料となります。必ず記入して教務チームへ提出してください。

(1) 教員に必要な資質能力に関する自己評価

学校教育を管轄する文部科学省によって定められた教職課程において修得すべき「教員として必要な知識・技能等」について、授業内でどの程度理解し習熟できたかを自分自身で評価します。太線枠内の該当箇所に○印を記入してください。

授業科目名	単位修得	チェック項目	測定指標	理解・習熟度に対する自己評価
教科教育法	未・済	取得希望免許教科に関する基礎理論・知識	教科教育にかかる専門分野の基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
	未・済	教科書・学習指導要領の内容理解	教科書や教科の学習指導要領の内容を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教職論	未・済	教職の意義や教員の役割・職務内容の理解	教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育原論	未・済	教育の理念・教育史・思想の理解	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育心理学	未・済	心理・発達論的な子ども理解	子ども理解のために必要な心理・発達論的基礎知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育制度論	未・済	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育課程論	未・済	教育課程の構成に関する基礎理論・知識	教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
道徳教育論	未・済	道徳教育に関する基礎理論・知識	道徳教育の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
特別活動論	未・済	特別活動に関する基礎理論・知識	特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育方法論	未・済	情報機器・教材の活用に関する基礎理論・知識	情報教育機器及び教材の活用に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		学習指導法に関する基礎理論・知識	学修指導の方法・技術に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
生徒指導論	未・済	子どもの状況に応じた対応	いじめ・不登校・特別支援教育等、個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		学習集団の形成	学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育相談	未・済	保護者・地域・他者との連携協力	保護者や地域、他者と連携・協力して課題に取り組むことの重要性を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		発達段階に応じたコミュニケーション	子どもたちの発達段階に応じたコミュニケーションの重要性を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		教育相談・進路指導に関する基礎理論・知識	教育相談・進路指導に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ

4年次の5月末日までに教務課(資格課程)へ返却してください。

(2) 取得希望免許状の教科に関する専門的な知識や技能についての自己評価

取得を希望している免許状の教科について、将来教壇に立って生徒たちに教育・指導する自分の姿を想像しながら、現時点での自身の専門的知識・技能等を評価します。

2年次までの習熟レベルと3年次の習熟レベルとを相対評価して、授業を受けて自分がどの程度成長したかを振り返り、今後の強化課題を確認します。

取得希望する免許状教科に関する各領域について、太線枠内の該当箇所に○印もしくは必要事項を記入してください。

教科	抽出側面	2年次の知識習得レベル(自己評価)	3年次の1年間での知識習得度向上(自己評価)	自分で感じる不得意な事項(自由記述)
社会 公民 地歴 (共通)	日本史(社会科のみ)	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	外国史(社会免許のみ)	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	地理学・地誌(社会科のみ)	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	法律学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	政治学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	社会学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	経済学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	哲学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	倫理学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	宗教学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	

教職課程 履修カルテ <理解・習熟度 自己評価シート> 2年次生用(国際文化学部人文学科各教科共通様式)

学籍番号		氏名	
取得希望免許教科(該当するものすべてに○印を記入)			
中一種免(国語)・中一種免(社会) ・ 高一種免(国語)・高一種免(公民)・高一種免(地歴)			

この自己評価シートは、4年次の教育実習後に履修する「教職実践演習」の授業の際に、教員として不足している知識・技能等を補うために役立つ重要な資料となります。必ず記入して教務チームへ提出してください。

(1) 教員に必要な資質能力に関する自己評価

学校教育を管轄する文部科学省によって定められた教職課程において修得すべき「教員として必要な知識・技能等」について、授業内でどの程度理解し習熟できたかを自分自身で評価します。太線枠内の該当箇所に○印を記入してください。

授業科目名	履修登録	単位修得	チェック項目	測定指標	理解・習熟度に対する自己評価
教育原論	未・済	未・済	教育の理念・教育史・思想の理解	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえはいえ ・ いいえ
教育心理学	未・済	未・済	心理・発達論的な子ども理解	子ども理解のために必要な心理・発達論的基礎知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえはいえ ・ いいえ
教育制度論	未・済	未・済	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえはいえ ・ いいえ

(2) 取得希望免許状の教科に関する専門的な知識や技能についての自己評価

取得を希望している免許状の教科について、将来教壇に立って生徒たちに教育・指導する自分の姿を想像しながら、現時点での自身の専門的知識・技能等を評価します。入学直前のレベルと大学入学1年後のレベルとを相対評価して、授業を受けて自分がどの程度成長したかを振り返り、今後の強化課題を確認します。取得希望する免許状教科に関する各領域について、太線枠内の該当箇所に○印もしくは必要事項を記入してください。

教科	抽出側面	入学前の知識習得レベル(自己評価)	この1年間での知識習得度向上(自己評価)	自分で感じる不得意な事項(自由記述)
国語	国語学	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
	国文学・文学史	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
	漢文学	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
	書道(中免のみ)	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	

教職課程 履修カルテ <理解・習熟度 自己評価シート> 3年次生用(国際文化学部人文学科各教科共通様式)

学籍番号		氏名	
取得希望免許教科(該当するものすべてに○印を記入)			
中一種免(国語)・中一種免(社会) ・ 高一種免(国語)・高一種免(公民)・高一種免(地歴)			

この自己評価シートは、4年次の教育実習後に履修する「教職実践演習」の授業の際に、教員として不足している知識・技能等を補うために役立つ重要な資料となります。必ず記入して教務チームへ提出してください。

(1)教員に必要な資質能力に関する自己評価

学校教育を管轄する文部科学省によって定められた教職課程において修得すべき「教員として必要な知識・技能等」について、授業内でどの程度理解し習熟できたかを自分自身で評価します。
太線枠内の該当箇所に○印を記入してください。

授業科目名	単位修得	チェック項目	測定指標	理解・習熟度に対する自己評価
教職論	未・済	教職の意義や教員の役割・職務内容の理解	教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育原論	未・済	教育の理念・教育史・思想の理解	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育心理学	未・済	心理・発達論的な子ども理解	子ども理解のために必要な心理・発達論の基礎知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育制度論	未・済	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育課程論	未・済	教育課程の構成に関する基礎理論・知識	教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
特別支援教育論	未・済	特別の支援を必要とする生徒に対する理解	特別の支援を必要とする生徒に対する理解ができたとおもいますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
道徳教育論(中免のみ)	未・済	道徳教育に関する基礎理論・知識	道徳教育の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
特別活動論	未・済	特別活動に関する基礎理論・知識	特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育方法論	未・済	情報機器・教材の活用に関する基礎理論・知識	情報教育機器及び教材の活用に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		学習指導法に関する基礎理論・知識	学習指導の方法・技術に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
生徒・進路指導論	未・済	子どもの状況に応じた対応	いじめ・不登校・特別支援教育等、個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		生徒・進路の指導法	生徒・進路の指導法に対する知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
総合的な学習の時間の指導法	未・済	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法について理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育相談	未・済	保護者・地域・他者との連携協力	保護者や地域、他者と連携、協力して課題に取り組むことの重要性を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		発達段階に応じたコミュニケーション	子どもたちの発達段階に応じたコミュニケーションの重要性を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		教育相談・進路指導に関する基礎理論・知識	教育相談・進路指導に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ

(2) 取得希望免許状の教科に関する専門的な知識や技能についての自己評価

取得を希望している免許状の教科について、将来教壇に立って生徒たちに教育・指導する自分の姿を想像しながら、現時点での自身の専門的知識・技能等を評価します。

1年次の習熟レベルと2年次の習熟レベルとを相対評価して、授業を受けて自分がどの程度成長したかを振り返り、今後の強化課題を確認します。

取得希望する免許状教科に関する各領域について、太線枠内の該当箇所に○印もしくは必要事項を記入してください。

教科	抽出側面	1年次の知識習得レベル(自己評価)	2年次の1年間での知識習得度向上(自己評価)	自分で感じる不得意な事項(自由記述)
国語	国語学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	国文学・文学史	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	漢文学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	書道(中免のみ)	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
社会 公民 地歴 (共通)	日本史	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	外国史	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	地理学・地誌	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	法律学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	政治学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	社会学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	経済学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	哲学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	倫理学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
宗教学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった		

教職課程 履修カルテ <理解・習熟度 自己評価シート> 4年次生用(人文学部総合人文学科設置各教科共通様式)

学籍番号		氏名	
取得希望免許教科(該当するものすべてに○印を記入)			
中一種免(国語)・中一種免(社会) ・ 高一種免(国語)・高一種免(公民)・高一種免(地歴)			

この自己評価シートは、4年次の教育実習後に履修する「教職実践演習」の授業の際に、教員として不足している知識・技能等を補うために役立つ重要な資料となります。必ず記入して教務チームへ提出してください。

(1)教員に必要な資質能力に関する自己評価

学校教育を管轄する文部科学省によって定められた教職課程において修得すべき「教員として必要な知識・技能等」について、授業内でどの程度理解し習熟できたかを自分自身で評価します。太線枠内の該当箇所に○印を記入してください。

授業科目名	単位修得	チェック項目	測定指標	理解・習熟度に対する自己評価
教科教育法	未・済	取得希望免許教科に関する基礎理論・知識	教科教育にかかる専門分野の基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
	未・済	教科書・学習指導要領の内容理解	教科書や教科の学習指導要領の内容を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教職論	未・済	教職の意義や教員の役割・職務内容の理解	教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育原論	未・済	教育の理念・教育史・思想の理解	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育心理学	未・済	心理・発達論的な子ども理解	子ども理解のために必要な心理・発達論的基礎知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育制度論	未・済	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育課程論	未・済	教育課程の構成に関する基礎理論・知識	教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
道徳教育論	未・済	道徳教育に関する基礎理論・知識	道徳教育の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
特別活動論	未・済	特別活動に関する基礎理論・知識	特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育方法論	未・済	情報機器・教材の活用に関する基礎理論・知識	情報教育機器及び教材の活用に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		学習指導法に関する基礎理論・知識	学修指導の方法・技術に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
生徒指導論	未・済	子どもの状況に応じた対応	いじめ・不登校・特別支援教育等、個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		学習集団の形成	学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育相談	未・済	保護者・地域・他者との連携協力	保護者や地域、他者と連携・協力して課題に取り組むことの重要性を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		発達段階に応じたコミュニケーション	子どもたちの発達段階に応じたコミュニケーションの重要性を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		教育相談・進路指導に関する基礎理論・知識	教育相談・進路指導に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ

4年次の5月末日までに教務課(資格課程)へ返却してください。

(2) 取得希望免許状の教科に関する専門的な知識や技能についての自己評価

取得を希望している免許状の教科について、将来教壇に立って生徒たちに教育・指導する自分の姿を想像しながら、現時点での自身の専門的知識・技能等を評価します。

2年次までの習熟レベルと3年次の習熟レベルとを相対評価して、授業を受けて自分がどの程度成長したかを振り返り、今後の強化課題を確認します。

取得希望する免許状教科に関する各領域について、太線枠内の該当箇所に○印もしくは必要事項を記入してください。

教科	抽出側面	2年次の知識習得レベル(自己評価)	3年次の1年間での知識習得度向上(自己評価)	自分で感じる不得意な事項(自由記述)
国語	国語学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	国文学・文学史	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	漢文学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	書道(中免のみ)	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
社会 公民 地歴 (共通)	日本史	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	外国史	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	地理学・地誌	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	法律学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	政治学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	社会学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	経済学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	哲学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	倫理学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
	宗教学	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	

教職課程 履修カルテ <理解・習熟度 自己評価シート> 2年次生用(美術科/工芸科共通様式)

学籍番号		氏名	
取得希望免許教科(該当するものすべてに○印を記入)			
中一種免(美術) ・ 高一種免(美術) ・ 高一種免(工芸)			

この自己評価シートは、4年次の教育実習後に履修する「教職実践演習」の授業の際に、教員として不足している知識・技能等を補うために役立つ重要な資料となります。必ず記入して教務チームへ提出してください。

(1) 教員に必要な資質能力に関する自己評価

学校教育を管轄する文部科学省によって定められた教職課程において修得すべき「教員として必要な知識・技能等」について、授業内でどの程度理解し習熟できたかを自分自身で評価します。太線枠内の該当箇所に○印を記入してください。

授業科目名	履修登録	単位修得	チェック項目	測定指標	理解・習熟度に対する自己評価
教育原論	未・済	未・済	教育の理念・教育史・思想の理解	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育心理学	未・済	未・済	心理・発達論的な子ども理解	子ども理解のために必要な心理・発達論の基礎知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育制度論	未・済	未・済	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ

(2) 取得希望免許状の教科に関する専門的な知識や技能についての自己評価

取得を希望している免許状の教科について、将来教壇に立って生徒たちに教育・指導する自分の姿を想像しながら、現時点での自身の専門的知識やスキルを評価します。入学直前のレベルと大学入学1年後のレベルとを相対評価して、授業を受けて自分がどの程度成長したかを振り返り、今後の強化課題を確認します。太線枠内の該当箇所に○印もしくは必要事項を記入してください。

抽出側面	入学前の技能もしくは知識に関するレベル(自己評価)	この1年間での技能もしくは知識に関する習熟度向上(自己評価)	自身の考えるウィークポイント(自由記述)
絵画・デッサン	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
彫塑・立体造形	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
デザイン・構成	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
工芸作品制作	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
映像メディア表現	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
美術理論・美術史	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
以下の項目は、高一種免(工芸)の取得を希望している者のみ記入してください。			
図法・製図	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
工芸理論・工芸史	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	
デザイン理論・デザイン史	高い ・ やや高い ・ ふつう ・ やや低い ・ 低い	高くなった ・ やや高くなった ・ かわらず ・ やや低くなった ・ 低くなった	

(3)わたしの考える理想の教員像

自分にとって理想の教員像や教育理念について漠然とした考えを持っているのではないですか？

以下の枠内に、文章やイラスト等を使って、現時点での自分の考えを自由に表現してみてください(文字数等は不問です)。

A large, empty rectangular box with a black border, intended for the respondent to write or draw their thoughts on the ideal teacher image and educational philosophy.

教職課程 履修カルテ <理解・習熟度 自己評価シート> 3年次生用(美術科/工芸科共通様式)

学籍番号		氏名	
取得希望免許教科(該当するものすべてに○印を記入)			
中一種免(美術) ・ 高一種免(美術) ・ 高一種免(工芸)			

この自己評価シートは、4年次の教育実習後に履修する「教職実践演習」の授業の際に、教員として不足している知識・技能等を補うために役立つ重要な資料となります。必ず記入して教務課へ提出してください。

(1) 教員に必要な資質能力に関する自己評価

学校教育を管轄する文部科学省によって定められた教職課程において修得すべき「教員として必要な知識・技能等」について、授業内でどの程度理解し習熟できたかを自分自身で評価します。太線枠内の該当箇所に○印を記入してください。

授業科目名	単位修得	チェック項目	測定指標	理解・習熟度に対する自己評価
教育原論	未・済	教育の理念・教育史・思想の理解	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育心理学	未・済	心理・発達論的な子ども理解	子ども理解のために必要な心理・発達論的基礎知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育制度論	未・済	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育課程論	未・済	教育課程の構成に関する基礎理論・知識	教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
道徳教育論	未・済	道徳教育に関する基礎理論・知識	道徳教育の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
特別活動論	未・済	特別活動に関する基礎理論・知識	特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育方法論	未・済	情報機器・教材の活用に関する基礎理論・知識	情報教育機器及び教材の活用に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		学習指導法に関する基礎理論・知識	学習指導の方法・技術に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
生徒指導論	未・済	子どもの状況に応じた対応	いじめ・不登校・特別支援教育等、個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		学習集団の形成	学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育相談	未・済	保護者・地域・他者との連携協力	保護者や地域、他者と連携・協力して課題に取り組むことの重要性を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		発達段階に応じたコミュニケーション	子どもたちの発達段階に応じたコミュニケーションの重要性を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		教育相談・進路指導に関する基礎理論・知識	教育相談・進路指導に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ

(2) 取得希望免許状の教科に関する専門的な知識や技能についての自己評価

取得を希望している免許状の教科について、将来教壇に立って生徒たちに教育・指導する自分の姿を想像しながら、現時点での自身の専門的知識やスキルを評価します。

1年次の習熟レベルと2年次の習熟レベルとを相対評価して、授業を受けて自分がどの程度成長したかを振り返り、今後の強化課題を確認します。

太線枠内の該当箇所に○印もしくは必要事項を記入してください。

抽出側面	1年次の技能もしくは知識に関するレベル(自己評価)	2年次の1年間での技能もしくは知識に関する習熟度向上(自己評価)	自身の考えるウィークポイント(自由記述)
絵画・デッサン	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
彫塑・立体造形	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
デザイン・構成	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
工芸作品制作	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
映像メディア表現	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
美術理論・美術史	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
以下の項目は、高一種免(工芸)の取得を希望している者のみ記入してください。			
図法・製図	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
工芸理論・工芸史	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
デザイン理論・デザイン史	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	

教職課程 履修カルテ <理解・習熟度 自己評価シート> 4年次生用(美術科/工芸科共通様式)

学籍番号		氏名	
取得希望免許教科(該当するものすべてに○印を記入)			
中一種免(美術) ・ 高一種免(美術) ・ 高一種免(工芸)			

この自己評価シートは、4年次の教育実習後に履修する「教職実践演習」の授業の際に、教員として不足している知識・技能等を補うために役立つ重要な資料となります。必ず記入して教務課へ提出してください。

(1) 教員に必要な資質能力に関する自己評価

学校教育を管轄する文部科学省によって定められた教職課程において修得すべき「教員として必要な知識・技能等」について、授業内でどの程度理解し習熟できたかを自分自身で評価します。太線枠内の該当箇所に○印を記入してください。

授業科目名	単位修得	チェック項目	測定指標	理解・習熟度に対する自己評価
教職論	未・済	教職の意義や教員の役割・職務内容の理解	教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育原論	未・済	教育の理念・教育史・思想の理解	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育心理学	未・済	心理・発達論的な子ども理解	子ども理解のために必要な心理・発達論的基礎知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育制度論	未・済	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育課程論	未・済	教育課程の構成に関する基礎理論・知識	教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教科教育法	未・済	取得希望免許教科に関する基礎理論・知識	教科教育にかかる専門分野の基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
	未・済	教科書・学習指導要領の内容理解	教科書や教科の学習指導要領の内容を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
道徳教育論	未・済	道徳教育に関する基礎理論・知識	道徳教育の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
特別活動論	未・済	特別活動に関する基礎理論・知識	特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育方法論	未・済	情報機器・教材の活用に関する基礎理論・知識	情報教育機器及び教材の活用に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		学習指導法に関する基礎理論・知識	学修指導の方法・技術に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
生徒指導論	未・済	子どもの状況に応じた対応	いじめ・不登校・特別支援教育等、個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		学習集団の形成	学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
教育相談	未・済	保護者・地域・他者との連携協力	保護者や地域、他者と連携・協力して課題に取り組むことの重要性を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		発達段階に応じたコミュニケーション	子どもたちの発達段階に応じたコミュニケーションの重要性を理解できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ
		教育相談・進路指導に関する基礎理論・知識	教育相談・進路指導に関する基礎理論・知識を習得できたと思いますか？	はい ・ どちらかといえばはい ・ どちらかといえばいいえ ・ いいえ

4年次の5月末日までに教務課(資格課程)へ返却してください。

(2) 取得希望免許状の教科に関する専門的な知識や技能についての自己評価

取得を希望している免許状の教科について、将来教壇に立って生徒たちに教育・指導する自分の姿を想像しながら、現時点での自身の専門的知識やスキルを評価します。

2年次までの習熟レベルと3年次の習熟レベルとを相対評価して、授業を受けて自分がどの程度成長したかを振り返り、今後の強化課題を確認します。

太線枠内の該当箇所に○印もしくは必要事項を記入してください。

抽出側面	2年次の技能もしくは知識に関するレベル(自己評価)	3年次の1年間での技能もしくは知識に関する習熟度向上(自己評価)	自身の考えるウィークポイント(自由記述)
絵画・デッサン	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
彫塑・立体造形	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
デザイン・構成	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
工芸作品制作	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
映像メディア表現	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
美術理論・美術史	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
以下の項目は、高一種免(工芸)の取得を希望している者のみ記入してください。			
図法・製図	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
工芸理論・工芸史	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	
デザイン理論・デザイン史	高い・やや高い・ふつう・やや低い・低い	高くなった・やや高くなった・かわらず・やや低くなった・低くなった	

科目ナンバリングコード	CQT6001201	授業科目名	学校ボランティア		
担当教員名	住友 剛、共通教育開講責任者				
履修可能開始学年	1年	単位数	2.0単位	授業区分	集中講義
開講年度	2022年度	開講学期	2022年度1Q、2022年度2Q	開講曜日・講時	集中講義
クォーター開講科目	セメスター開講科目			○	

科目分類	教職に関する科目	抽選科目		教室	R-201、オンライン授業
授業形態種別	講義	授業実施形態	対面授業（一部、遠隔授業含む）		
相関するDP(カリキュラム年度2017-2020)					
相関するDP(カリキュラム年度2021-)	DP-1 知識と理解	DP-2 創造的思考と考察	DP-3 技術と表現	DP-4 他者理解と協働	DP-5 社会への関心と行動
相関の有無					

科目ナンバリングの説明ページへのリンク	https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/numbering.html	ディプロマポリシー（DP）の説明ページへのリンク	https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/matrix.html
---------------------	---	--------------------------	---

サブタイトル	「学校で大学生たちがさまざまな体験活動を行うことの意義」を考える
授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実際に学校現場（もしくは子どもとかわる仕事の現場）に入りこみ、教職員の補助的な仕事や部活動支援などを体験するなかで、学校教育の実際の姿を学び、教職課程で学ぶ理論と実践との関係について考察を深めるための基礎知識を得る。 2. 学校現場でのさまざまな体験活動を通じて、自らの教員としての適性を把握するための準備作業を行う。 3. 「学校ボランティア」という切り口から、現代日本の学校教育の諸課題について理解を深める。
授業の概要	<p>この科目で主に扱っている活動は、たとえば小中学校や高校・支援学校、幼稚園・保育所、あるいは放課後児童クラブ・児童館、民間団体での放課後の学修支援や不登校の子どもたちの居場所づくり活動等の現場体験活動です。</p> <p>また、実際の活動内容としては、たとえば教職員の授業や事務作業の補助、放課後や長期休暇中の子どもの体験活動・補習授業の補助、部活動や学校行事のサポートなどが考えられます。</p> <p>では、特に教職課程で学ぶ学生のみならず、このような現場体験活動に取り組むことには、どのような意義があるのでしょうか。この授業の受講者に体験を通して考えてほしいのは、このことです。</p> <p>この科目では、教職課程の受講生たちが学校現場でのさまざまな体験活動を積み重ねながら、学校教育に関する理論と実践の関係について考察を深めたり、学校の現状について知るとともに、自らの教員としての資質を高め、適性を把握すること。そのことにつながるような事前学習を、この科目では行いたいと考えています。また、このような事前学習や、その後の現場体験活動の経験が、今後の教職課程各科目で学ぶことに大きく役立つと考えています。</p>
実務経験／実践的教育	
授業計画	<p><注意></p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下のとおり、事前指導（対面＋遠隔、4～7月）と実際のボランティア活動（第2クォーター及び夏休み）、事後指導（9月下旬）の3つのパートで授業計画が組まれている。その点に留意すること。 ・4月15日（第1回）～6月3日（第8回）までの対面授業は、金曜6限に実施する予定である。 ・新型コロナウイルス感染症の流行状況次第では、学校でのボランティア活動の実施が難しいケースが生じる。その場合は「代替課題」を出す等の対応を行う。 <p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1：授業計画の説明及び「学校現場に入ること」の意義（対面、4月15日） 2：学校ボランティア導入の「背景」にある日本の学校事情（対面、4月22日） 3：実際に学校ボランティア活動に入るための諸手続きについて（対面、4月29日） 4：学校における新型コロナウイルス感染症の予防について（対面 5月6日） 5：学校ボランティア活動に取り組む場合の諸注意（対面 5月13日） （子どもや教職員とのかかわり方、安全確保等） 6：ボランティア活動の記録作成などについて（対面 5月20日） 7：ボランティア活動の体験発表について（対面 5月27日） 8：ボランティア活動の計画の最終確認（対面、6月3日） 9：学校ボランティア活動の事例（1）学習支援（遠隔、6月17日） 10：学校ボランティア活動の事例（2）学校の環境整備（遠隔、6月24日）

- 11：学校ボランティア活動の事例（3）障害のある子どもの支援（遠隔、7月1日）
※なお、第2クォーター及び夏休み（8～9月）を中心に、ひとり40時間程度（5日間）の学校外でのボランティア活動+20時間程度の記録作成に取り組むこと。
- 12：体験発表の資料作成準備＝（遠隔、9月20日）
13：ボランティア体験の発表（1）小中学校での体験発表（対面、9月27日3限）
14：ボランティア活動の発表（2）高校やそれ以外の場での体験発表（対面、9月27日4限）
15：今学期のまとめ（対面、9月27日5限）

授業外学習の指示（予習・復習・課題等）

この科目では教室での授業や遠隔授業（資料・課題配信型）のほかに、夏休みや第2クォーターの時期を中心に、60時間程度の「教室外学習」を必要とします。そのうち、40時間程度（5日間）を実際の学校等でのボランティア活動に、20時間程度をその体験活動の記録作成にあててください。

評価方法・評価基準

ボランティア活動の体験記録の作成60%、ボランティア活動の体験発表20%、授業への参加度20%（コメントカードの提出など）。

履修条件・留意点及び受講生に対する要望

- 1：この科目は「学校（あるいは子どもに関する民間団体）」でのボランティア活動を「必須」とします。教室内の学習だけでなく、教室外での体験活動とその記録作成が大事になります。そのことを忘れないでください。
- 2：「授業計画」にも書きましたが、科目の性質上、事前指導的な授業（遠隔授業を含む）→ボランティア活動→事後指導（体験発表会。準備を含む）という流れになっています。そのことも注意をしてください。
- 3：新型コロナウイルス感染症の状況次第では、急遽、ボランティア活動が実施できない場合も生じます。その場合「代替課題」を出して対応します。

購入必須テキスト

参考文献・作品等

秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学編『教育研究のメソドロジー』東京大学出版会、2005年
鯨岡峻『エピソード記述入門』東京大学出版会、2005年
柴山真琴『子どもエスノグラフィー入門』新曜社、2006年
佐藤晴雄『学校支援ボランティア特色づくりの秘けつと課題』教育出版、2005年
霜田浩信ほか『学校ボランティアハンドブック—支援の必要な子ども、教師、学校とのかかわり方Q&A』ほんの森出版、2011年
これ以外については授業中に適宜、紹介する。

参考WEBサイト（サイト名・URL）

「連絡用フォーム」見本（下記赤字部分を参考に記入して下さい）

◆研究授業日程の連絡◆

※研究授業の日程が決まり次第、下記項目を至急メールにて送付して下さい。

1. 学籍番号：**218L025**
2. 氏名：**セイカ 太朗**
3. 実習校名：**京都市 立 精華中 学校**
4. 実習校電話番号：**075-702-5119**
5. 実習指導教諭名（フリガナ）：**精華 花子**（セイカハナコ）

6. 研究授業を行う週の時間割を記入してください。

担当授業予定日時に○印を記入してください。

そして、研究授業日時には、◎印を記入してください。

第（3）週目の時間割：

5/30 日（月） | 1()|2()|3(○)|4(○)|5()|6()

5/31 日（火） | 1()|2(○)|3()|4()|5(○)|6()

6/1 日（水） | 1()|2()|3(○)|4(○)|5()|6()

6/2 日（木） | 1()|2()|3()|4()|5()|6()

6/3 日（金） | 1()|2()|3(○)|4(◎)|5()|6()

実習先の時間割を教えてください

1 限目：**8 時 20 分**～ **9 時 00 分**

2 限目：**9 時 10 分**～ **9 時 50 分**

3 限目：**10 時 00 分**～ **10 時 40 分**

4 限目：**10 時 50 分**～ **11 時 30 分**

5 限目：**13 時 00 分**～ **13 時 40 分**

6 限目：**13 時 50 分**～ **14 時 30 分**

7. その他大学への連絡があれば記入下さい。

毎日大変ですが、担当クラスの生徒さんともコミュニケーションがとれるようになりました。（※訪問を自粛して欲しいとの要望があった場合はこちらに記載してください）

送付先アドレス（教務チーム新家）：**seigos@kyoto-seika.ac.jp**

メールの件名：**(212L025 セイカ 太朗)** 研究授業日程の連絡

卒業生の教員免許状取得状況

平成30年度卒業生

学部・研究科	高等学校免許						中学校免許				授与合計	取得人数
	美術	工芸	国語	英語	地歴	公民	美術	国語	英語	社会		
芸術学部	25	5					24				54	25
デザイン学部	8	1					6				15	8
マンガ学部	7						5				12	7
人文学部			4					4			8	4
芸術研究科	6	2					5				13	6
デザイン研究科											0	0
マンガ研究科											0	0
人文研究科											0	0
合計	46	8	4	0	0	0	40	4	0	0	102	50

※学部は一種免許取得数、研究科は専修免許取得数を記載

令和元年度卒業生

学部・研究科	高等学校免許						中学校免許				授与合計	取得人数
	美術	工芸	国語	英語	地歴	公民	美術	国語	英語	社会		
芸術学部	22	7					19				48	22
デザイン学部	9						7				16	9
マンガ学部	12						9				21	12
人文学部			2		1			2		1	6	3
芸術研究科	4	1					2				7	4
デザイン研究科											0	0
マンガ研究科											0	0
人文研究科											0	0
合計	47	8	2	0	1	0	37	2	0	1	98	50

※学部は一種免許取得数、研究科は専修免許取得数を記載

令和2年度卒業生

学部・研究科	高等学校免許						中学校免許				授与合計	取得人数
	美術	工芸	国語	英語	地歴	公民	美術	国語	英語	社会		
芸術学部	11	2					6				19	11
デザイン学部	3						1				4	3
マンガ学部	13						9				22	13
人文学部			2		1	1		2		2	8	4
芸術研究科	3	1					2				6	3
デザイン研究科											0	0
マンガ研究科											0	0
人文研究科											0	0
合計	30	3	2	0	1	1	18	2	0	2	59	34

※学部は一種免許取得数、研究科は専修免許取得数を記載

令和3年度卒業生

学部・研究科	高等学校免許						中学校免許				授与合計	取得人数
	美術	工芸	国語	英語	地歴	公民	美術	国語	英語	社会		
芸術学部	11	4					8				23	11
デザイン学部	4	1					3				8	4
マンガ学部	13						10				23	13
人文学部			6		2	2		6		4	20	10
芸術研究科	1						1				2	1
デザイン研究科											0	0
マンガ研究科											0	0
人文研究科											0	0
合計	29	5	6	0	2	2	22	6	0	4	76	39

※学部は一種免許取得数、研究科は専修免許取得数を記載

卒業生の教職就業状況

平成30年度卒業生

学部・大学院\校種	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
芸術学部	6	2	0	8
デザイン学部	0	0	0	0
マンガ学部	0	0	0	0
人文学部	0	1	0	1
芸術研究科	1	0	0	1
デザイン研究科	0	0	0	0
マンガ研究科	0	0	0	0
人文研究科	0	0	0	0
合計	7	3	0	10

令和元年(2019)度卒業生

学部・大学院\校種	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
芸術学部	1	3	0	4
デザイン学部	0	0	0	0
マンガ学部	0	2	0	2
人文学部	0	0	0	0
芸術研究科	1	1	0	2
デザイン研究科	0	0	0	0
マンガ研究科	0	0	0	0
人文研究科	0	0	0	0
合計	2	6	0	8

令和2年(2020)度卒業生

学部・大学院\校種	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
芸術学部	0	2	0	2
デザイン学部	0	0	0	0
マンガ学部	2	0	0	2
人文学部	0	1	0	1
芸術研究科	0	0	0	0
デザイン研究科	0	0	0	0
マンガ研究科	0	0	0	0
人文研究科	0	0	0	0
合計	2	3	0	5

令和3年(2021)度卒業生

学部・大学院\校種	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
芸術学部	1	2	0	3
デザイン学部	2	0	0	2
マンガ学部	1	0	0	1
人文学部	2	0	0	2
芸術研究科	0	0	0	0
デザイン研究科	0	0	0	0
マンガ研究科	0	0	0	0
人文研究科	0	0	0	0
合計	6	2	0	8